

第六回 貴族院議事速記録第十六號

明治二十七年六月二日(土曜日)

午前十時五十四分開議

議事日程 第十六號 明治二十七年六月二日

午前十時開議

第一 明治二十五年年度豫備金支出ノ件(政府提出) 會議(特別委員)

第二 明治二十五年年度各特別會計豫算外支出ノ件

第三 陸軍召集旅費支出ニ關スル法律案(政府提出) 會議(特別委員)

第四 東京砲兵工廠据置運轉資本増加ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第六 外國ニ輸出スル物品ニ課スル海關稅免除法律案(尾崎三良君) 第一讀會

第七 府制法案(男爵渡邊清君) 第一讀會

第八 復族ノ請願 會議

第九 質屋取締條例改正ノ請願 會議

第十 協力高ニ對スル金祿公債證書下付ノ請願 會議

第十一 沖繩縣宮古島々費輕減及島政改革ノ請願 會議

第十二 俵製及荷造改良ノ請願 會議

第十三 千島國樺提島電線架設ノ請願 會議

第十四 庄内川改修ノ請願 會議

第十五 信濃川流末改修ノ請願 會議

第十六 復祿及復族ノ請願 會議

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 昨一日本院ニ於キマシテ可決ニナリマシタル

政府提出國稅徵收法中改正法律案、明治二十二年勅令第四百一十一號第一條改正法律案、明治二十三年法律第四號中改正法律案ハ即チ内閣總理大臣ヲ經由シマシテ裁可ヲ奉請シ及可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知致シマシテゴザリマス、昨

日本院ニ於テ修正議決ニナリマシタル政府提出軍用電信條例法律案ハ即日之ヲ衆議院ニ廻付致シマシテゴザリマス、昨日本院ニ於キマシテ議決ニナリマシタル官吏恩給法中追加法律案及遺族扶助法補助法律案ハ即日衆議院ニ送附致シマシテゴザリマス、是レヨリ會議ニ移リマス、明治二十五年年度豫備金支出ノ件、前會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告、

〔三浦安君演壇ニ登ル〕

○三浦安君 明治二十五年年度豫備金支出總計算書ニ附キマシテ委員會ニ於テ調査ヲ致シマシタル結果ヲ御報道致シマス、此豫備金ニ對シマシテハ即チ此添ヘマシタル説明書ニゴザリマス通り二十五年年度ハ前年度ノ豫算ヲ其儘用ヒマシタル依リマシテ自然豫備金支出ノ多クナリマシタルコトハ免レマセヌ成行デゴザリマス、依ッテ委員會ニ於キマシテ昨日早朝ヨリ委員會ヲ開キマシテ大藏省ノ主任ヲ呼ビマシテ夫々皆箇條毎ニ質問ヲ致シマシテゴザリマスガ、其質問ニ答ヘル所ニ依リマスレバ孰モ皆已ムヲ得ザル支出デゴザリマスカラ、別ニ是レト申シテ非難スベキコトハゴザリマセヌデ即チ原案ノ通り承諾ナスベキモノト云フコトニ委員會ニ於テハ決シマシテゴザリマス、デ此事ハ委員長ヨリ報告ヲ致スベキデゴザリマスガ、委員長谷子爵ハ他ノ特別委員會ニ於キマシテ差支ヘマスルノデ即チ本員ガ委員長ニ代リマシテ御報告ヲ致シマス、速ニ原案ノ通り承認アラムコトヲ希望仕リマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案ニ附キマシテ別ニ御論ガゴザリマセヌト存ジマスニ依ッテ表決ニ付シマス、是レハ即チ政府ヨリ事後承諾ヲ求メルノ案デゴザリマスルカラ讀會ヲ經ルモノデナクシテ一度デ確決スルノデゴザリマス、本案ヲ承諾スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数ト認メマス、即チ承認スルコトニ決シ

マシタ、次ニ明治二十五年年度各特別會計豫算外支出ノ件、前會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告、

〔三浦安君演壇ニ登ル〕

○三浦安君 此明治二十五年年度各特別會計豫算外支出ノ件ニ附キマシテモ委員長谷子爵ノ差支ニ依リマシテ本員ガ代リマシテ委員會ノ結果ヲ報告致シマス、是レモ即チ此理由書ニモ申シテゴザリマスル通り皆已ムヲ得ザルニ出デマシタルコトデ、鎖店銀行紙幣交換基金ガ一箇條、第一高等中學校ガ一箇條、鹿兒島高等中學造士館ガ一箇條、東京美術學校ガ一箇條、此四箇條ニ於キマシテ支出ニナリマシタルコトナノデゴザリマス、是レ又十分ニ質問ヲ遂ゲマシ

テゴザイマスガ皆已ムヲ得ヌ臨時ニ出來マシタ所ノ支出デゴザイマス、即チ此通りニ承認スベシト云フコトニ委員會ニ於テハ決シマシタデゴザイマス、此段ヲ御報告致シマス、尙ホ御不審ガゴザイマスレバ政府委員ニ御質問下サル様ニ願ヒマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案ヲ表決ニ付シマスル、本案ヲ承諾スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数ト認メマス、即チ承諾スベキコトニ決シマシタ、次ニ陸軍召集旅費支出ニ關スル法律案第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告、

〔男爵渡邊清君演壇ニ登ル〕

○男爵渡邊清君 本案ノ審査ハ去月三十一日ニ開キマシテ委員會ニ於テハ本案ノ通り可決スルコトニナリマシタ、元來陸軍省ノ省令、現行法ノ陸軍召集條例ニ依ッテ見マスルト此各在郷ノ軍人所謂豫備後備ノ下士卒或ハ國民軍ノ幾分ト云フモノガ召集ニナリマスルトキニハ非常ノ事變ニ應ジテ召集ニナリマシタトキニハ、二十四時間内ニ召集ニ應ゼバナラヌノデゴザイマス、然ル所ガ此現行法ニ依ッテ見マスルト此軍人が集合場ニ參ッテ旅費ヲ請取ルト云フニ最も遠イ所ノ地方ノ者ハ既ニ二日半ヲ要スルコト云フ割合ニナリマス、デ此集合場ト云フモノハ各地方ニ豫テ定メテアリマスルガ、其場所ハ僅ノコトデマア一府縣内ニ概シテ四五箇所位ノ割合デゴザイマス、夫レ故ニ斯ク遠方ノ者ハ暇取リマシテ二日半ヲ要セバナラヌト云フコトニナリマス、又現行ノ法ニ依ッテ見マスルト此臨時召集ニ際シマシテ旅費ヲ渡サウトスルトキニハ先ヅ大藏省其他種々ノ手續ヲ經マシテ支拂命令ヲ發シマシテ旅費支出規程ニ依ッテ現金前渡シテ受クベキ所ノ官吏ナル者ガ即チ其金ヲ携ヘテ行ッテ、デ此集合場デ彼ノ軍人ニ渡サバナラヌノデゴザイマス、夫レデハ甚ダ間ニ合ヒマセヌ、急變ニ應ズル間ニ合ヒマセヌ、元來此地方ニハ陸軍ノ駐在官ガマア夫ク配置シテゴザイマス、是レ等モ各郡各村ヲ平生巡廻致シテ在郷ノ軍人ノ調査モ致シテ居リマス、舉動モ調ベテ居リマス、又府縣知事ヨリモ豫メ命令等ヲ下シタコトモアリ、又市町村長ニ於テモ夫ク注意ヲ致シテ斯様ナトキニハ斯ウ云フ旗ヲ立テテ集メルトカ斯ウ云フ鐘ヲ撞クトカ云フ様ナ事マデ平生注意ハ致シテ居リマス、ソコノ用意ハ出來テモ何分ニモ旅費ノ渡シ方ガ出來マセヌ、夫レ故ニ二十四時間ニ急變ノ召集ニ應ズルコトガ出ケヌノデゴザイマス、右様ノ不都合ナコトニナリマスルニ附イテ此度之ヲ改正ヲ致シテ先ヅ陸軍省ハ豫メ支拂命令ヲ監督部ヨリ發セラレマシテ、デ此直ニ市町村

長ヲシテ此現金前渡シテ受ケ得ル様ニサセマス、サウシテ速ニ兵卒ニ渡スト云フコトガ出來マスノデゴザイマス、ソコデ此迅速ナル手續ヲ取ラセヤウト云フ爲メニ斯ノ如ク此案ガ出マシタノデゴザイマス、然ルニコノ元來軍人ハ一應ハ其命ニ應ジテ出ル時ニ市町村長ノ役場ニハ必ズ寄ラバナラヌノデス、是レニハ又段々用ガアリマスル、軍事ノ事戶籍ノ事其他又手帳杯モ用意シテ居ルノチハ渡シテヤルト云フコトモゴザイマス、デ其場デ既ニ旅費マデ渡サル、ト云フ譯ニナリマスルデ是レナラバモウ二十四時間ニ間ニ合ハヌコトハナイノデゴザイマス、夫レ故ニ之ヲ可決シタ譯デゴザイマス、所ガ此案ニ政府ノ提出ノ案ト云フモノガ添ウテ居リマスル、夫レヲ衆議院デ修正シタガ今日ノ本案トナッテ居リマスルガ、此衆議院ノ修正モ主意ニ於テハ少シモ異ナリマセヌ、又事實ニ於テモチットモ異ナリマセヌ、デ何故ニ衆議院デ斯ノ如ク修正ヲ爲シタカト云フコトモ承ッテ見ル所ガ、政府案ニ於テハ各市町村長ヲ直ニ出納官吏トナシト云フコトニシテゴザイマス、玆ニ嫌ガアッテ、元來此自治制度ノ「市町村長ヲ出納官吏トシ」ト云フノガ少シ嫌ガ町村制度ニ於テアリハセヌカト云フコトヨリシテ即チ本案ノ如ク「前項ノ場合ニ於テハ市町村長ニ對シ會計法第九條ニ定ムル出納官吏ニ關スル規定ヲ適用ス」ト斯ウ直シタノデス、デ先ヅ此方ガ宜カラウト云フコトニ決シマシタノデゴザイマス、右ノ次第デゴザイマスカラ速ニ可決ニナラムコトヲ希望致シマス、元來是レハ單一ノ法律ノ様ニゴザイマスルケレドモ、軍事上ニ於テハ最も肝要ナコトデアラウト考ヘマスルデドウカ速ニ決セラレムコトヲ希望致シマス、

○侯爵中御門經明君 本員ハ唯今委員長ノ報告ニ依リマスルト如何ニモ必要ナモノデ、之ニ附イテハ格別異議モアルマイト考ヘルデ三讀會ヲ省零シテ速ニ……

○伯爵大原重朝君 中御門侯爵ノ動議ニ贊成致シマス、

○子爵小笠原壽長君 中御門侯爵ノ動議ニ贊成、

○南鄉茂光君 贊成、

○男爵渡邊清君 贊成、

○男爵本田親雄君 贊成、

○湯地定基君 贊成、

○前田正名君 贊成、

○子爵伏原宜足君 贊成、

○男爵小松行正君 贊成、

○野崎武吉郎君 贊成、

○伯爵酒井忠道君 贊成、

○子爵日野西光善君 賛成、

○子爵堀親篤君 賛成、

○永山盛輝君 賛成、

○子爵山口弘達君 賛成、

○子爵大久保忠順君 賛成、

○子爵京極高典君 賛成、

○安藤則命君 賛成、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 中御門侯爵ノ讀會省署ノ要求ニハ定規ノ賛成

ガゴザイマス、決テ採リマス、三讀會ノ順序ヲ省署スベシトスル諸君ノ起立

ナ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 三分ノ二以上ト認メマス、依ッテ讀會ハ省署

セラレマシテゴザイマス、原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、本案ハ可決セラレマシ

タ、次ニ東京砲兵工廠据置運轉資本増加ニ關スル法律案、政府提出、衆議院

送付、第一讀會ヲ開キマス、朗讀ヲ致サセマス、

〔有賀書記官朗讀〕

東京砲兵工廠据置運轉資本増加ニ關スル法律案

右政府提出案本日本院ニ於テ可決セリ仍テ議院法第五十四條ニ依リ及送付

候也

明治二十七年五月三十一日

衆議院議長 楠 本 正 隆

貴族院議長 侯爵蜂須賀茂韶殿

海軍省舊所轄目黒火藥製造所ニ屬シタル物品中其ノ品質運轉資本ニ屬スヘ

キモノハ金拾壹萬五千參百貳拾參圓五錢參厘ノ價格ヲ以テ明治二十七年

ニ於テ東京砲兵工廠据置運轉資本ニ増加ス

〔政府委員野田裕通君演壇ニ登ル〕

○政府委員(野田裕通君) 本法律案ノ必要ヲ……要シマス次第チ一應簡單

ニ申述ベマス、此目黒火藥製造所ハ從來海軍ノ所轄ニ屬シテ居マシタルデゴ

ザイマス、然ルニ陸軍ノ砲兵工廠ノ一部ニ明治二十六年四月ヨリ移サレマシ

テゴザイマス、然ルニ陸軍ノ砲兵工廠ハ明治二十三年法律第十八號ノ陸軍作

業會計法ニ依リマシテ特別會計ノ一部トナッテ居マス、故ニ此運轉資本金ト

云フモノハ其當時ノ工廠ニ屬シテ居リマシタル所ノ營業資本額ヲ以テ制限チ
定メラレテ居リマス、然ルニ前申シマス通り海軍省ノ目黒火藥所チ陸軍省ニ
移シタル當時ニ其目黒火藥庫ニ現在致シマシテ居マシタル材料其他ノ物品ガ
當時買入レタル平均價格ニ積ッテ見マス即チ十一萬五千三百二十三圓餘ノ
品ガ存シテ居マシタ、之ヲ以テ目黒火藥製造所ノ將來ノ運轉資本トシテ作業
ヲ致シマス計畫デアリマス、夫レ故ニ此法律案ヲ御制定ガナケレバ此物品材
料ヲ使用スルコトガ能ハマノデアリマスカラ此法律案ヲ要シマス次第デゴザ
イマス、既ニ此法律案ハ第五議會ノ時當院ニ於キマシテハ特別委員會ニ付セ
ラレマシテ御審査中解散ノタメニ終ニ成立タズ故ニ今日マデ此材料ヲ使用ス
ルコトガ出來ヌタメニ大ニ差支チ生ジテ居リマスノデゴザイマス、故ニドウ
カ速ニ御協賛ヲ願ヒマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉ニ移

リマス、

○子爵堤功長君 本案ノ特別委員ノ選定ハ議長ニ委託スルノ動議ヲ提出致

シマス、

○侯爵中御門經明君 特別委員ヲ議長ニ御委任スルコトハ堤子爵ノ動議ニ

賛成致シマス、尙ホ其報告ハ本日中ニ審査シテ報告スルト云フ條件附ニナ

ラムコトヲ請求致シマス、

○男爵小松行正君 堤子爵ノ動議ニ賛成致シマス、併ナガラ審査期限ハ切

ラズトモ如何ニモ切迫致シテ居リマスカラ出來次第ニ直ニ議場ニ報告スルコ

トニナルコトト思ヒマスカラ期限ハ切ラズトモ宜カラウト思ヒマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 堤子爵ヨリ本案ノ委員ノ選定ヲ議長ニ委託ス

ル、此動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、次ニ外國ニ輸出スル物

品ニ課スル海關稅免除法律案、尾崎三良君外一名發議、第一讀會ヲ開キマス、

朗讀ヲ致サセマス、

〔有賀書記官朗讀〕

外國ニ輸出スル物品ニ課スル海關稅免除法律案

右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治二十七年五月十六日

發議者 尾崎三良

賛成者 公爵 二條基弘

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿

外四十三名

外國ニ輸出スル物品ニ課スル海關稅免除法律案
外國ニ輸出スル物品ハ明治二十七年十月一日ヨリ總テ其ノ關稅ヲ免除ス

〔尾崎三良君演壇ニ登ル〕

○尾崎三良君 此案ハ前回以來既ニ諸君モ御承知ノ通りノコトデアリマシテ今日別ニ委シク其理由ヲ述ベル必要モナカラウト存ジマス、詰マリ我國ハ是レヨリ益シ海外ニ向テ貿易ヲ盛ニシ國ヲ富スト云フコトガ必要デアアル、是レハモウ諸君モ御異存ハナカラウト思ヒマス、夫レニ附イテハドウシテモ此輸出稅ト云フモノガアッテハ其貿易ノ發達ヲ大ニ妨ゲルト云フコトハ是レハ事實デアアルカラ、夫レ故ニ此外國貿易ノ發達ヲ幾何カ妨ゲル所ノ輸出稅ヲ速ニ全廢シテ益シ將來我國ノ商業ヲ盛ニシ國ヲ富マスト、斯ウ云フ理由デアリマス、ドウカ速ニ御贊成アラムコトヲ希望致シマス、尤モ此事ニ附イテハ前會以來モ色々ナ論者モゴザイマシタカラ單簡ナ法律デアアルガ尙ホ特別委員ニ付シテ篤ト調査ヲスルト云フ御説デアリマシテモ、又ハ最早理非分明デアアルカラ直ニ議シテモ宜シイト云フ御説デアレバ宜シウゴザイマスガ、兎ニ角其所ハ諸君ノ御裁定ニ任カサウト思ヒマス、尙ホ委シイコトハ御質問ニ應ジテ答辯ノ出來得ル限リハ答辯ヲ致シマス積リデゴザイマスガ、出來ナイトキハ致シ方ガゴザイマセヌ、

〔前田正名君演壇ニ登ル〕

○前田正名君 輸出稅全廢ニ反對ノ者デ、今日日本ノ形勢トシテ決シテ輸出稅ヲ全廢スル時デゴザイマセヌ、實ニ此問題ハ重大ナコトデゴザイマシテ、今日日本ノ實業ノ有様ヲ委シク申上ゲナケレバナラナイ場合ニ立至リマシタ、輸出稅全廢家ノ言ハレル如キハ三下リ半デ出來ルコトデアルト、是レ等ノコトヲ非常ニ心配スル我々デゴザイマス、中々容易ナコトデゴザイマセヌ、國家ノコトハ自分ノ意見或ハ外國ノ翻譯書、以テ我國ニ適用スルコトハ餘程注意スベキコトデアッテ輸出稅全廢者ハ學力、其人ノ智識ヲ以テ論究セラレマスケレドモ、我々ニ於キマシテハ物其物ニ問ヒ、其物ニ物言ハセタ結果ヲ申上ゲルノデ、毫モ自分ノ意見ヲ申述ベルノデゴザイマセヌ、輸出稅全廢ノ目的ハ、第一ニ輸出商ヲ利スルコト、第二ハ輸出品ノ増額ヲ致スコト、第三ハ價ヲ廉價ニシテ外國市場ノ競争ニ打勝ツコトト云フ精神ニ外ナラナイ、決シテイケマセヌ、我々ハ輸出稅全廢家ノ目的トスル所ノ日本ニ利益ヲ得タイト云フ精神ナ者デアアル、今日輸出稅ヲ全廢スル其利益ヲ我國ニ收メルト云フコトハ毫モ出來マセヌ、其目的ヲ果ス精神ニ至ッテハ同感デゴザイマス

ケレドモ、我國ノ輸出稅ヲ全廢シテ我國ニ利益ヲ收メルト云フコトハ毫モ出來マセヌハ無論ノコト、輸出稅ヲ全廢スベキ様ニ仕掛ケル今日デアッテ、決シテ今日全廢スル時デゴザイマセヌ、時ニ依ッテハ輸出稅ヲ全廢シテ大キニ利スル所ガアリ又ハ之ヲ課シテ大キニ利益ヲ得ル、國柄、時、其品ニ據ルコトデゴザイマス、輸出入ノ稅ニ附キマシテハ能ク其國柄ヲ知リ、能ク其國柄ヲ知リ、能ク外國等ノ同業者ノ有様ヲ知ッテ、又其時ト其品柄ヲ能ク知ラナケレバナリマセヌ、第二ハ輸出稅ノ有無ニ拘ラズ輸出額ノ増加スルモノガアリ、又輸出額ヲ増加シテ損失ヲ受ケルモノガゴザイマス、非常ニゴザイマス、言葉ガ拙且ツ入組ミタコトデゴザイマスルカラ圖ヲ以テ御分リ易キ様ニ認メテ來マシタ、見エマスカ知レマセヌガ〔圖ヲ示ス〕此手工品特有物產、即チ日本ノ竹細工ノ如キ、漆器ノ如キハ特有物產トナッテ世界ニ敵ナシ、世界ニ斯ノ如キ精兵ハナイト云ッテ宜シイ品デゴザイマス、其竹ノ物ガ流行ル、漆器ガ流行ル、日本ノ紙ガ流行ル、是レハ競争ノナイモノデゴザイマス、第二ニ物產ニハ普通品石炭、米、羅紗、ふらねるハ普通品、是レガ普通品ノ需用者デゴザイマス、是レガ生産者デゴザイマス、支那ダノ佛蘭西、伊太利、日本、皆普通品ノ需用者ガアル、又第二ハ其普通品ノ中ニ日本支那ニ限ッテ同ジ茶、印度支那錫蘭、又絲ニシテハ佛蘭西、支那、伊太利、日本ハ同ジ品デゴザイマスルケレドモ、日本ノ品ヲ用ヒル人ト支那ノ物ヲ用ヒル需用者ト九デ區別シテゴザイマス、譬ヘバ日本ニ出來ル綠茶……茶ノ如キ、支那印度錫蘭ニ出來ル紅茶、紅茶ヲ飲ム人ハ決シテ綠茶ヲ飲ミマセヌ、故ニ其同ジ茶デゴザイマスガ全ク別種類ト見ナケレバナリマセヌ、夫レニハ支那、印度、錫蘭ノ如キ紅茶ヲ造ル所デハ同ジ需用者ニ在ッテ非常ニ競争ガゴザイマスケレドモ、日本ノ茶ノ如キハ其茶ヲ以テ競争スルコトハ出來ナイモノデゴザイマス、是レハ誠ニ言フニ忍ビザル今日デゴザイマス、是レハ城トシテゴザイマス、即チ橫濱神戸ノ居留地、城ノ如キモノデゴザイマス、是レハ日本製產家ノ有様デゴザイマス、是レハ需用地、日本カラ行ク所ノ需用先、此人タチハ外國ノ生産家デアッテ中々紀律正シイモノデゴザイマス、日本ノ二十有餘年コノカタハ斯ノ如キ有様デゴザイマス、鐵砲ノ音コソ聞キマセヌケレドモ、三十餘年間晝夜間斷ナク商船ノ戰、商賣ノ戰、一日モ休戰ナシ、日一日トシテ勝利ナシト云フ有様デゴザイマス、成ル程今日鎮臺、日本ニ數箇所ノ鎮臺ハ出來テ居リマスルガ、其前諸藩各、城ヲ持ッテ居ッタトキニ同ジ城同様ナモノヲ持ッテ居ッタ、譬ヘバ肥前ノ燒物、尾州ノ燒物、其他數々此殖產ノ城ヲ有シテ居ッタノガ、戰サチスル城ハ鎮臺ガ出來マシタケレドモ、此國ヲ養フ所ノ鎮臺ト云フモノハサッパリ無クナッテ來テ居ルノデゴザイマス、故ニ此農工商、即チ工商ノ有様ト云フモノハ烏合ノ兵、孤立、此城ハ日本人ノ城

デハゴザイマセヌ、即ち居留地ノ外國商人ノ城、銀行アリ、運搬其他ノ機關モ備テ居ルノデゴザイマス、我が日本ニ於テハ敵ガ來テ城ヲ築イテ居リナガラ、我が農工商ノ城ハ立ッテゴザイマセヌ、故ニ商賣ニ行ッテ即ち軍サノ如キ、此城ニ我が商人ガ賣込ム有様ハ夙ニ御承知ノコトト思ヒマスルケレドモ、種々様々ナ手段ヲ以テ外國人ニ媚ビル、決シテ賣ル力ハナクテ御買上ゲ下サイト云フ様ナ有様、御買上チ願フト云フ有様デゴザイマス、故ニ賣ルノデナクテ買ハレルノデゴザイマス、賣ルト云フ力ト買ハレルト云フ力トハ非常ナ差デゴザイマス、賣ル力ナシ、唯買ハレルノデゴザイマス、利益ナクテ唯引合フト云フマデ、利益アルト引合フトハ大變ナ違ヒデゴザイマス、彼等ハ外國ノ産地ガ氣脈ヲ通ジ、決シテ亂レタ商賣ハシチャ居マセヌ、日本ハ此奴ガ一人行キ一圓ニ御買ヒ下サイト云フ、又此奴ガ行ッテ九十錢ニ御買ヒ下サイ、又此奴ガ七十錢ニ御買上ゲ下サイト云フタメニ、産額ハ殖エテモ其價ヒスベキ價ヲ得ルコトハ出來ズ、遂ニ價スベキ價タルコトガ出來ナイタメニ手間ヲ抜ク様ニナッテ參リマシタ、絲、茶、雜貨、皆手間ヲ抜イテ形ヲ其様ニ見セテ引合フ様ニシテ賣ル、夫レガ即ち粗製濫造トナッテ來タ原因デゴザイマス、譬ヘテ申シマスルト安政六年ニ茶ハ百斤ニ附イテ十八圓或ハ二十圓トシテ賣リマシタ、此相場モ買フ人ガ付ケタノデ、決シテ賣ル力ナク、唯買フ人ガ直チ付ケテ買ッテ呉レタノデゴザイマス、夫レカラ段々直段ガ宜クナリマシテ慶應四年ニハ四十弗、殆ド倍餘ノ力、之ヲ買進メ買上ゲタ、其力ハ我が日本人デアルカト云フト決シテサウデゴザイマセヌ、彼等ガ誠ニ日本ト云フ國ハ宜イ國デアル、賣ル人ハ曰ク、ドウザアナタヨリ直チ付ケテ下サイト云フ以上ハ是レデ買フト云ッテ宜イ、夫レニ賣ラヌト云フコトハ云ハナイ國デアル、故ニ外國ノ同業者ハ誠ニ宜イ國デアルトシテ皆來テ、彼等ガ競争シテ二十弗ノモノヲ四十弗餘ニ買進メタモノデゴザイマス、安政ニハ二十弗、萬延ニナッテ同ジ、文久ニナッテ同ジ二十二弗、同ジク四年ニナッテ三十五弗、慶應ニハ四十弗、四十二弗、明治初年ニ於テ三十二弗、夫レヨリ段々低クナリマシテ明治九年ニハ十九弗トナッテ來マシタ、十九弗トナッテ譯ハ前刻申上ゲル通り、價スベキ價ニ賣ルコトガ出來ナイタメニ手間ヲ抜キ引合フ様ニト云フ所カラ粗末ニスルカラシテ粗製濫造トナッテ、亞米利加ノ此得意先ニ於キマシテハ政府ヨリ日本ノ茶ハ茶デナイ、毒ガ入ッテ居ル、我が米國民ハ飲ムナトマデ達シタノデゴザイマス、故ニ我が日本ノ茶丈ケデハゴザイマセヌ、他ノ物モ、譬ヘバ茶ノ一例ヲ舉ゲマスルト日本茶業者ト云フ者ハ決シテ日本人デナク、唯居留地人デアルト云ハナケレバナリマセヌ、ナゼナレバ此茶ヲ造ッテ居留地ニ持込ム、持込ンダ以上ハ形ヲ改メラレル、色ヲ改メラレル、魂即ち茶ノ性質マデモ變セラレマス、故ニ此居留地ノ御方ミガ日本

ニ茶畠ヲ持ッテ居ル、夫レヲ製焙スル、夫レヲ賣ルト云フ者ハ皆此居留地人デゴザイマス、日本ノ生産家ト云フ者ガ外國トシテ需用者トシテ認ムル所ハ此城即ち神戸長崎ノ居留地デゴザイマス、此日本人ガ見ル所ノ得意先需用者ト云フモノハ我が横濱我が神戸デゴザイマス、同ジ同業者ノ外國ノ生産家ノ需用地、需用者ト云フ者ハ現ニ茶ヲ飲ム者、其物ヲ用ヒル所デゴザイマス、大變違ヒマス、故ニ日本茶業者ハ畠ヲ横濱ニ持ッテ行ッテ西洋人ニ摘マシテ、摘ンデ夫レヲ製焙シテ、夫レヲ荷造チシテ外國ニ出シテ行ク、居留地人ガ此日本ノ製茶家、製茶家並ニ直輸出スル商人デアル、日本人デハゴザイマセヌ、悲シイコト、サウデゴザイマス、玆マデ行ッタ以上ハ形ヲ改メラレ、色ヲ變ヘラレル、魂ヲ變ヘラレル、日本茶ト云フモノハ此居留地ニ入ッテナクナルモノデゴザイマス、故ニ今日此場合ニ輸出稅ヲ全廢シタトテ、産額ノ殖エルノハ恐ロシウゴザイマス、産額ノ殖エルノヲ喜ブト云フコトハドウ云フコトカト云フト利益ヲ澤山ニ得ルト云フ話デゴザイマス、利益ナイ以上ハ畠ヲ潰シ人ノ手間ヲ潰ス、寧ロ産額ハ殖エナイ方ガ宜カラウト思ヒマス、故ニ今茶ニシテ一斤十二錢ニシテ海關稅ヲ拂ヒマスルガ、其百斤ニ一圓何十錢ノ稅、之ヲ以テ製茶家ニ悉ク利益ノアル譯ハゴザイマセヌ、此城主ハ一圓十錢海關稅ヲ拂ハナイカラ一圓十錢ハ御前方ニ返シテ遣ルト云フ様ナ親切ナ商人デゴザイマセヌ、必ズ一年位ハ半額位高ク買フカモ知レマセヌガ、其翌年カラハ決シテ高ク買フモノデハゴザイマセヌ、澤山例ガゴザイマスカラ序ナガラ茶ノコトヲ申上ゲマスガ、澤山其他ノ品ニ例ガゴザイマスガ茶ノコトヲ續イテ申上ゲマス、我が當業者印度ノ如キ栽培者ヨリ直グト商人ニ賣ル外國ノ需用者ニ、所謂支那ノ如キ製茶ハ僅カ一ツノ關門ヲ經テ直グト外國ノ需用地ニ往クガ、日本ノハ十一箇所ノ關門ヲ經テ漸ク外國ニ往クノデアリマス、日本人トシテ外國ニ商賣スル人ハナイト言ッテモ宜シウゴザイマス、絲ト僅ナ雜貨ハゴザイマスケレドモ、全體カラ申上ゲルト外國ト商賣スル人ハナイ、唯居留地ト商賣ナスルノミデアルト言ッテ宜シイノデゴザイマス、此十一箇所ノ弊害ト云フモノハ今申上ゲマス通り日本ノ静岡三重ナリノ畠デ、夫レヲ摘ンデ賣ッテ製シテ賣ッテ夫レヲ外國ニ賣ルノハ即ち居留地人デアッテ決シテ日本人ノ力デハゴザイマセヌ、故ニ我が製茶ハ安政ニハ二十弗デアッタモノガ、慶應ニ至ッテ四十弗マデ進ンデ、段々ト此自分達ガ同ジ兵隊デアッテ敵ニ當ル味方ノ裏切デゴザイマス、其ノ結果トシテ十九年ニハ十六弗平均ニナッテ産額ハ殖エマシタ、マサウ云フ有様デアリマス、次ハドウカト申シマスレバ外國ノ當業者ハドウ云フ有様カト申上ゲマスルト錫蘭、是レハ明治八年ニ我々が錫蘭ニ行ッタ時ニハ茶ハスッパリ儲ハナイ位デアリマシタ、所ガ明治十六年ニハ四十萬圓餘四十二萬バカリノ茶ヲ出シテ居リマシタ、段々溯ッテ來テ

明治十八年ニハ僅カニ二年越シテ百三十六萬圓バカリニナリ、明治二十三年ニハ千三百萬圓トナリ、昨年ニハ一千六百萬圓ニナリテ居リマス、僅ノ間デ明治十六年ニハ四十二萬圓餘ノ產出ガ僅ニ十年ヲ待ッテ一千六百萬圓ト云フ高デアリマス、是レハ其方法ノ宜シキヲ得テ〔圖ヲ示ス〕御覽ニ入レル通り正々堂々ノ陣ヲ張ッテ居リマス、我が日本人ハ皆烏合ノ兵デ味方擊、裏切競争ノタメニ斯ウ云フ災難ニ逢ッタ、彼等ハ產額ノ殖エル毎ニ金額ガ殖エル、印度ノ如キ勿論是レハ古クヨリ開ケテ居リマスケレドモ、明治二十一年ニハ二千三百萬圓、二十三年ニハ中一年ヲ置キテ二十三年ニハ二千八百萬圓餘ト斯ウ進歩シテ居リマス、支那ノ如キハ明治二十一年ニハ四千二百六十萬圓餘、二十三年ニハ一年ヲ置イテ五千五百六十五萬圓餘ト斯ウ進ンデ居リマス、我が日本ハ明治二十一年ニハ六百十二萬圓、二十三年ニハ六百三十萬圓、昔ヨリ產額ハ殖エテ居リマスケレドモ、前刻カラ申上ゲマス通りニ此外國トノ商賣ナスル人がナイタメニ價ヲ左右セラレドウカ御買上チ願ヒタイト云フ様ナ位デアリマスカラ、產額ハ殖エルトモ決シテ金額ハ殖エヌト言ハナケレバナラヌ、故ニ此輸出稅全廢シテ其茶製造者、茶ヲ輸出スル商人即チ外國居留地人ニハ目下ノ處却ッテ其人達ニ利益ハアラウト思フ、百二十萬人程ノ製茶家ハ粗製トナリ濫造トナルコトハアリマセウケレドモ、此輸出稅全廢シタメニ利益ニナルコトハ毫モ出來マセヌノデゴザイマス、我々ノ身ニ取リマシテハ實ニ國家ノ盛衰ハ今日此議場ニアルコトト云フ位ニ思ッテ居リマスカラ、親シク御聞取テ願ッテ尙ホ御分リニナラヌ所ハ御質問チ願ヒタイ覺悟デゴザイマス、茶畠ノ損ハ非常ナモノデゴザイマス、產額ハ殖エルガ其利益ハナイト云フ其例ヲ申上ゲマス、明治二十一年ニハ、茶畠ノ段別ハ四萬八千五百八十町七段餘デゴザイマス、明治二十一年ニハ四萬八千五百八十町七段ト云フモノデゴザイマシタ、夫レガ段々殖エテ來マシテ明治二十四年ニハ五萬二千三百三十四町四段ト斯ウナッテ居ルト云フ様ナ畠ヲ費スノデアリマスガ、費シタ丈ケ利益ハナイノデゴザイマス、明治二十一年ニ一段歩ニ附イテ茶ノ平均ハ製茶九十七斤ト云フモノガ出來テ居ル、一段歩ノ收穫、即チ製茶ニシテデゴザイマス、九十七斤デアリマスガ二十二年、二十三年、二十四年ニ至ッテ八十四斤トナッテ居ル、段別ハ殖エルガ僅カ三年ノ間ニ十斤餘落チテ居リマス、我が此貴イ地面ヲ斯ウ云フ働サシテ國家經濟ニ取リテハ非常ナ不利デゴザイマス、產額ハ殖エテ、サウシテ地面ハ非常ニ殖エテ往ク、茶畠ハ非常ニ殖エテ往キ產額ハ二十一年ニハ九十七斤アッタモノガ中二年ヲ置キ八十四斤ニ減ジタ、是レハ何ノタメニ減ジタカト云フニ價スベキ價ニ賣ルコトガ出來マカラ手ヲ入レルコトガ出來ヌ、肥シテ入レルコトガ出來ヌト云フ、皆利益ノナイ仕事デゴザイマスカラ引合ハヌタメニ皆之ヲ粗末ニシタノデアリマ

ス、故ニ一段ノ働ガ九十七斤ト云フモノガ出來タニ僅カ二箇年、中ヲ置イテ八十四斤、殆ド一段歩ニ附イテ十斤餘ノ損デゴザイマス、尙ホ人ニ就イテハ明治二十年ニハ茶ヲ製スル戸數ハ八十九萬五千四百三十五戸、二十一年ニハ二十一萬、二十二年ニハ二十四萬、二十三年ニハ二十五萬、二十四年ニハ二十五萬六百戸、大變茶ニ從事スル人が殖エテ來マシタ、殖エテ來マシタガ其利益ハナイノデアリマス、二十年ニハ一戸ニ附イテ二百六十七斤、段別ハ少ク戸數モ少イ、ケレドモ二百六十七斤一戸ノ平均收穫ガゴザイマス、二十四年ニハ戸數ガ殖エテ段別モ殖エテ其穫ル所ハ百七十一斤ト云フモノデゴザイマス、即チ二百六十七斤ト云フモノガ百七十一斤ト減ジテ居リマス、一戸ニ附イテノ穫ル所ノ金ハ明治二十年ニハ五十五圓七十八錢九厘平均ニナッテ居リマス、二十四年ニハ三十圓六十二錢四厘トナッテ居リ非常ナ差デゴザイマス、大變ナ差デゴザイマス、夫レヲ今日輸出稅ヲ廢スルト誰レニ廢スルカ即チ居留地人ニ廢スルノデ、或ハ我が製茶製絲家ノ一ニノタメニ廢スト言ハナケレバナラヌ、此例モ申上ゲマス、明治十年ニ始メテ、十年ブリデ日本ニ歸ッテ來マシテ此ノ事ハ政府モ非常ニ心配セラレテ居ル所ニ歸ッテ、丁度明治十三年ニ正金銀行ガ橫濱ニ出來、十五年ニ農商務省ガ出來マシタ、其當時ハ其橫濱邊ノ屈指ノ製絲家ハ直輸出ト云フコトニハ非常反對ニ立ッタモノデゴザイマス、ナゼナラバ直輸出ハ正金銀行ノタメニ爲換チセラレタナラバ我々が胡魔化シテ此生產家ノ手數ヲ探ルコトガ出來ヌト云フノデゴザイマス、始メテ十有餘年後今日ニ至ッテ夫レ等ノ人達ガ始メテ目ヲ醒シテ直輸出チシナケレバナラヌト云フコトニナッテ來タ、サウ云フ迷フ人達デゴザイマスカラ一二人達ノ便宜ヲ以テ此國家經濟ニ大變ナ關係ヲ持ッテ居ルコトニ許スベキモノデハゴザイマセヌ、其人達ガ直輸出ニ僅ナモノヲ始メツ、ゴザイマスカラ、其人達ハ手數ト云フモノハ一俵ニ附イテ二十二圓少クナルカラ便利デゴザイマスケレドモ決シテ製茶雜貨ニハ許ス限リデハゴザイマセヌ、次ニ先ヅ今日御承知ノ通り此日本ヲ支ヘテ居ル大黒柱ト云フモノハ製絲ト製茶デゴザイマス、製絲ノ大黒柱、製茶ノ大黒柱此二ツニ傷チ附ケマシタ以上ハ決シテ其當業者ノミデナイ四千餘萬人悉ク傷チ受ケル大切ナモノデアリマスカラ、外ノモノニ先ヅッテ茶ノ例ヲ此所ニ申上ゲテ、夫レヨリ製絲ノコトニ移リマシ、尙ホ申上ゲマスガ茶ノコトハ十八年間一日トシテ怠レヌ、調査ニ調査チ加ヘテ居リマスカラ一ニ時間言チ盡スコトハ出來マセヌ〔圖ヲ示ス〕是レガ日本ノ製絲表デゴザイマスガ種紙ヲ掃キ立マス、是レハ繭、製絲、茶一日一人ノ製シ高ガ百斤ニ附イテノ手間、百斤ニ對スル製絲ノ諸費、之ヲ外國ト比較シタモノデゴザイマスガ〔圖ヲ示ス〕此赤イ丈ケガ勝デアリマス、黒イノハ皆負ケデゴザイマス、皆輸出稅全廢ニ就イテノコトヲ申上ゲマスノデ誠ニ

苦シウゴザイマス、他ニ移ッテ往ク問題外ニ涉リマスカラ苦シウゴザイマス、蠶紙ノ掃立ハ伊太利ト日本ト蠶紙ノ戰ヲサセマシタナレバ同ジコトゴザリマス、二百二十餘萬或ハ二百五十萬枚、伊太利モ日本モ二百五十萬枚バカリ掃イテ居リマス、御承知デゴザリマセウ明治初年、明治十年マデハ殆ド此蠶紙ヲ二百五十萬伊太利其他ニ賣ッタ日本デゴザリマス、種紙ヲ賣ッタ日本デゴザリマス、其賣リ高モ買ハレズニシテ居ル力ガアッタナラバ過去ッタコトデゴザリマスケレドモ五百萬ダケノ力ハアッタデゴザリマス、ケレドモ買ハレノデ賣ル力ガナイカラ賣デ二百五十萬圓賣ッテ居ッタ、夫レチ今日ハ一枚モ賣ルコトガ出來ナイ有様ニナッテ來マシタ、若シモ伊太利國カ佛蘭西國ガ日本ノ蠶絲業ニ到底及バナイト思切ッテ吳レタトキニハ誠ニ日本ニ是レヨリ幸福ハゴザリマセヌガ、夫レデナイ段々日本ノ種紙ノ製絲家が競争ニ競争シテ遂ニ引合ハナイカラ粗製ノモノヲ作ッテ往ッテ信用地ニ落チテ仕舞ッタ、日本ノ種紙ハ實ニ其國ニ虎列刺ノ流行シタ位ニコワガッタモノデゴザリマス、種紙ノ粗製ノタメニ之ヲ一遍ヤリソコナッテ……ヤリソコナフ答デゴザリマス、實ニ虎列刺ノ如クコワガッタ故ニ日本人ト違フ工夫ヲ付ケル、氣力ガ日本ト違フ、ムヅカシイト云フコトヲ言ハナイ迎モ、日本人ナラ蠶種ヲ買フ譯ニイカヌ、實ニコワイモノデアルカラ日本人ト違ッテ言ヒマセヌ、ムヅカシイ代リニ工夫ヲシタ曉ニハ此種紙タル日本ニ數等上ノ種紙ヲ持ヘマス佛蘭西、伊太利デゴザリマス、出來ヌカラ日本ニ製絲ダケハ讓ルト云ッタ今日ノ輸入ハ決シテ恐レルコトハゴザリマセヌガ、工夫ヲシテ日本ノ種紙ノ數等上ニ付ク種紙ヲ持ヘタノハ日本ニ取ッテ實ニ悲シイコト、面目ノナイコト、且ツ不利益ナコトデゴザリマス、種紙ノ數……掃立數ハ對立シマス、伊太利ト日本ハ繭ニ於キマシテハ其種紙ヨリ繭ノ出來タ所ニ於キマシテハ日本ハ漸ク一枚ニ附イテ五斗ニ升平均、五箇年ノ平均デ五斗ニ升平均、此伊太利、敵トスル伊太利ハ殆ド六斗、又其六斗モ同ジ升數ハ格別違ハンデモ繭ノ力ニ至ッテモ追ッ付ケ知レマス、伊太利ノ生絲ノ出來高ハ五百七十二萬四千斤、我が日本ハ此倍モ出來ナケレハナラヌ所ニ五百四十二萬四千斤斯ウナッテ居ル、一日ノ製絲高デゴザリマス、一日ノ製絲高ハ伊太利ハ一人ニ附テ百二十匁取ルノチ日本デハ漸ク四十匁、三分ノ一デゴザリマス、繭ハ殆ト同ジク出來マスケレドモ繭ノ力ニ至ッテハ中々立派ナ繭デゴザリマスカラ大變容易ニ絲ニナルノデゴザリマス、夫レデ日本ノ人ハ彼等ヨリモ數等上ニ立ッ此指ヲ持ッテ居リナガラ四十匁、彼等ハ百二十匁、斯ウ敗レテ居リマス、百斤ニ附キ手間ガ伊太利ガ三十三圓三十三錢三厘平均デ、我が日本ハ六十圓、丸デ倍デゴザリマス、手間ト云ヒ衣食住ト云ヒ決シテ伊太利ハ高イコトハナイ、低ウゴザリマスケレドモ其百斤ニ附イテ六十圓、彼等ハ三十三圓、殆ド

半分デス、百斤ニ對スル諸雜費皆引イテ役人其他掛員皆引イテ百斤ニ附イテ伊太利ハ七十五圓デ出來マス、日本ハ殆ド百二十四圓、是レ倍デス、故ニ日本ノ絲チ今二十五圓ニシタ所デ彼等ハ七十五圓ヲ以テ百斤ヲ作ッテ居リマス、中々油斷ハ出來マセヌ、世界ノ絲ノ有様デゴザリマス、世界ノ絲ノ有様ハ、……御笑ヒニナル様ナコトデゴザリマセヌヨ、是レヨリ大切ナ議事ハナイト存ジマス、

〔藤村紫朗君謹聽謹聽〕ト述ブ

我が日本ノ絲ハ漸クニシテ世界ニ耻ヂナイ絲ガ此赤イ部分デゴザリマス、他ハ皆ナ種々様々ノ實ニ絲ト云フ位ニイカナイ位ナ有様ナモノガ多ウゴザリマス、我が弟子ノ弟子、孫ノ弟子トモ云フベキ伊太利佛蘭西ノ如キハ盡ク此赤即チ最上等ト先ヅ云ッテ宜イ位ナモノデゴザリマス、斯ウ云フコトデゴザリマス、此赤イモノガ漸ク亞米利加國ニ日本ヨリ出テ往クノデ、マダ中々仕事ハ多イノデゴザリマス、此隣ニ支那ト云フ大敵國ガゴザリマス、世界中ノ絲ヲ持ッテ往ッテモ一人デ應ズルコトガ出來マス、世界中ノ出來高ヲ持ッテ往ッテモ中々支那一ツニ勝ツコトハ出來マセヌ、直キ隣リ……是レハ日本將來ノ大敵デゴザリマス、若モ此支那ガ少シ有力家ガアッテ亞米利加ノ織物ニ應ズル佛蘭西ノ上等ノ織物ニ應ズルコト云フコトノ出來ル支那ノ絲デゴザリマスカラ、若モ此赤イノチ日ニ改良ヲ加ヘテ來マシタトキニハ此日本ノ絲ト云フモノハ殆ド討死デゴザリマス、モウ追ッ付ケ來マス、支那ヨリ佛蘭西ノもんベリねトカ其他學校ニ出シテ段々政府ニ對シテ建議致シテ居リマスカラ、追ッ付ケ動出シテ來タトキニハ此日本ノ絲ト云フモノハ無慘ニモ討死シナケレバナリマセヌ、故ニ今日輸出稅ヲ廢シタトキハ粗製ニナルトモ決シテ改良セラレト確信致シマス、若シ彼ノ支那ノ如ク粗製ニナッテ來テモ稅ヲ取ッテ居ルガ日本ハ稅ヲ許シタトテ日本人トシテ外國人ト商賣スルコトガナイ以上ハ直接ノ利益ヲ得ル譯ニイカナイ、最早私ハ種紙ノ城……私ハ此商賣ハ戰ノ如ク考ヘテ居リマス、又戰ヨリモ實ニ大切ナコトデアッテ種紙ノ城ハ破ラレ、微塵ニ破ラレ、此今日ノ種紙ニ附イテノ惡評ト云フモノハ實ニ言語同斷ナモノデゴザリマス、第二ハ繭ト云フ城ガ打チ殺サレ、第三ハ絲ガ殆ド危ブナイト云フ所ニ此輸出稅ヲ許シタトテ此日本ノ生産ヲ改良シ其產額ヲ殖スニ附イテ利益ヲ得ルコト云フコトハ今日マデノ經驗上其好結果ヲ見ヌデアリマス、ナゼナレバ日本人ハ引合フト云フコトヲ云フノト彼等ハ利益ト云フノト引合フト云フノト大變ナ差ガゴザリマス、日本人トシテ此衣食住ノ誠ニ粗末ナタメニ粗末ナタメニ何方デモ安ク買ハレテモ矢張り引合ヒサヘスレバ宜シイ、利益ハナクトモ食ッテ往ケサヘスレバ宜シイト云フコトニナッテ居ル、是レガ即チ衣食住ノ進マナイノデゴザリマス、其タメニナンボ付ケ下グラレテモ

矢張り造ッテ賣ルノゴザリマス、彼等ノ衣食住ニ入費ガ掛リマスカラソ
ナ引合ハナイコトデハイカヌ、利益ガナケレバ事ナセナイノゴザリマス、
ナゼ衣食住ガ低イカト云フト御承知ノ通り日本ノ人ハ家、一人ニ附イテ十二
圓平均、穀物ヲ食ベマスケレドモ九斗平均、彼等ハ一石餘、穀物ハ少ウゴザリ
マスガ一石餘、野菜魚非常ニ進ンデ居リマス、肉ニ至ッテハ日本人ハ半斤平
均デ、彼等ハ百斤百五十斤デ、殆ド三百倍ゴザリマス、著作物ハ日本人ハ二
圓五十錢平均、彼等ハ四十圓五十圓平均ゴザリマス、サウ云フ衣食ガ高ウ
コザリマスカラ此生産家ハ價ヒスベキ價ニ賣ラナケレバ生活ガ出來マセヌカ
ラ馬鹿ナ競争ナシナイノゴザリマス、日本人ハ八文デアッテモ十文デアッ
テモ引合ヒマスカラ、矢張り引合ヒサヘスレバ作ッテ往クト云フ姿ニナッテ
居ル、過言カハ知レマセヌガ此輸出稅アルタメニ日本ハ今日ハ得テ居ル
ト云フ勘定ニ當ラウト考ヘマス、斯ノ如キ有様ゴザリマスカラ輸出稅ヲ廢
シテ宜カレバトウゾ輸出稅ヲ廢止スル丈ケ宜シキ方法ニ夫レ丈ケノモノナ
御用ヒニナラムコトヲ望ムノゴザリマス、ナゼナレバ此佛蘭西國、極點ニ
往ッテ居ル所ノ生絲家デサヘモゴザリマス、デサヘモ二十六年度ニ佛蘭西
政府ヨリ獎勵金ハ九百萬おらんくデゴザリマスカラ、殆ド日本ノ五百萬圓デ
ゴザリマス、其蠶絲ノ出來高ト云フモノハ漸ク日本ノ長野縣一縣ニ於ケル如
キモノデゴザリマス、佛蘭西全國ノ製絲高ハ漸ク我が長野縣一縣ニ於ケル如
キモノ、此極點ニ進ンデ居ル所ノ絲ニサヘモ年々九百萬おらんく殆ド五百萬
圓ニ近イ獎勵金ヲ與ヘテ居ルノ有様ゴザリマス、尙ホ輸出稅ノ全廢ノ目的
ヲ達スル、即チ其精神其利益ヲ得ルニ先ダッテ其目的ヲ果ス様ニ手段ヲ今日
執ル所デアッテ、決シテ今日輸出稅ヲ全廢スル時デナイト云フコトヲ申上デ
マシタ、玆ニ一ツ御參考マデニ申上ゲマス、是レガ〔圖ヲ示ス〕日本ノ生産デ
ゴザイマス、絲デ、米デ、茶デ、ノ陶器、漆器、銅器ノ類皆生産、是レガ〔圖ヲ
示ス〕外國ノ日本ニ輸入スル所ノ國デゴザイマス、此日本ノ各府縣、各業ノ
利益スル所ヲ以テ今日ノ日本ノ國力ヲ進メナケレバナリマセヌ、此國力ガ不
幸ニモ依然トシテ居リマス、金ノ流通ハ烈シクナッテ來マシタケレドモ國用
ノ點ニ至ッテハ誠ニ悲シイ譯デゴザイマス、我々ハ今日ヨリ危急存亡ノ秋ハ
ナイト云フ位ニ考ヘテ居ル、此國ガ、流通資本ハナンボデゴザイマスルカ漸
ク一億八千萬圓餘、一人ニ附キ僅カ四圓五十錢、憐レ千萬ナ今日デゴザリマ
ス、其力ヲ増スニハ即チ此日本生産ノ力ニ依ラズンバ外ニ手段ハゴザイマセ
ヌ、此日本ノ生産ト外國ノ生産トノ違ヒ、中々輸出稅全廢チ今日論ズル様ナ
コトデゴザイマセヌ、ドウ戰ッテ居ルカト云フト砂糖ノ敵ハ日本ニ來テ殆ッ
日本ノ砂糖ヲ打殺ス、棉ト云フ敵ハ日本ニ來テ殆ッ打殺ス、モウ殺サレ切ッ
テ居リマス、油ト云フ奴ガ來ル、日本ノ菜種ハ誠ニ引合ハヌ様ニナッテ居ル、

御承知通りモウ今日ハ棉ハ御互五十錢平均ヅ、敵ヲ被フッテ居リマス胃ノ腑
マデ、砂糖ガ殆ド二十五錢平均食ベテ居ル、又醬油味噌マデモ敵ヲ胃ノ腑ニ
宿ッテ居ル様ナ有様デアリマス、斯ウ云フ有様、中々輸出稅全廢ドコロデハ
ナイ、此精兵ニ力ヲ盡シテ十分ニ働カセナケレバナラヌ時デアリマス、我が
精兵、米モ敵ノ米ガ這入り、追ッ付カナイ、茶モ進ム、中々敵ニ十分切込ム
譯ニ行カヌ、絲モ夫レ、陶器織物漆器悉ク我が精兵ハ誠ニ困難ナ有様ニ立到
ッテ居リマス、漆器ノ如キハ日本ト云フ日本ト云ハレル位ノモノデアリマ
ス、是レガ先刻申上ゲタ他ニナイ特有物産デアリマス、競争ノ出來ナイモノ
デゴザイマス、日本ノ漆カ漆ガ日本カト言ハレル位ノ日本ノ漆器、此精兵ハ
世界ニナイ當ルコトノ出來ナイ精兵デアッテ、何ボー敵ガアッテモ此精兵ニ
勝ツコトハ出來ナイ、即チ日本ノ漆デゴザイマス、今日ノアノ獨逸國ハ御承
知通りニ、地質ト云ヒ氣候ト云ヒ決シテ宜イ所デハゴザリマセヌ、其所ニ日
本ノ漆ヲ栽培シテ植付ケテ、夫レヲ成長サセテ漆ヲ取ル、ノミナラズ夫レヨ
リ漆ヲ持ヘテ日本風ノ細工ヲシテ夫レニ日本風ノ畫ヲ附ケテ今日ハ外國市場
ニ夫レヲ日本品トシテ日本ノ漆器ハ其敵ヨリ皆打殺サレタノデゴザイマス、
故ニ紀州和歌山ノ黒江ノ如キハ七十五萬圓、百萬圓出來タノガ今日デハ漸ク
二十五萬圓、二十五萬圓ト云フ其漆ハ何處ヨリ買フカト云フト十分ノ九マデ
ハ皆支那ヨリ買フデス、故ニ支那ヨリ買ウテ來タ所ノ漆ヲ以テ安ク付ク、ナ
ゼ安ク付ク様ニスルカト云フト競争裏切味方打チノタメニ價スベキ價ニ外國
人ニ賣ルコト出來ナイカラ手間ヲ抜キ粗製シテ安イ物ヲ持ヘル、一タビ之ヲ
外國市場ヘ持ッテ往クト實ニ其粗製アルタメニ或ハ壞ハレ、或ハ色ガ變ル
等サッパリ信用ナクナッテ參リマス、陶器、是レ皆輸出稅ヲ御廢シニナリ竹
細工モ御廢シニナッタ、此事ヲ例ヲ舉ゲマス、成ル程產額ハ殖エマシテゴザ
イマス、稅ヲ減ジタメニ殖エタカ、需用者ガタメニ殖エタカト云フコトハ
後ニ申上ゲマス、殖エマシタ、年々殖エテ來マシタ、例ハ巴岐阜縣土岐郡ノ
如キハ殆ド百萬ノ陶器ヲ製シテ、作ッテ居ル、其内ニ輸出品ハ澤山ゴザイマ
ス、其品幾ツヲ以テ百萬ニ價スルカト云フト殆ド三千萬、三千萬箇ヲ以テ百
萬ニ價スルノデゴザイマス、今日デハ此產額ハ倍、即チ六千萬箇出來テ其價
ハ漸ク三十五萬圓デゴザイマス、是レデモ輸出稅ヲ御廢シニナリマスカ、日
本ノ如キ世界ニナイ、世界ニナイ肥前ノ有田、伊萬里ノ如キ四十萬箇ノ品、
是レモ七十五萬圓賣タノガ今日デハ漸ク十三萬ヨリ十五萬アタリシカナイ、
斯ウナッテ來テ居リマス、我々ハ此敵ガ實ニ四千萬人ノ身體ニモ悉ク敵ガ喰
ッ付イテ居ル、甚シキニ至ッテハ胃ノ腑マデモ這入ッテ居ルカラ之ヲ打出ス
ニハ何ノ兵ヲ以テヤルカト云フニ世間ニ誇ルベク出來ベクムツカシクナイ
絲、陶器、漆器、紙、銅器、斯ウ云フモノデ此綿、米、油、羅紗ト云フ様ナ

敵ニ打勝ツコトハ決シテムツカシイデハゴザリマセヌ、是レハ經驗上私ノ意見デハナイ、物其物ニ問ヒ、物其物ニ物言ハセテノ調査ノ結果ヲ申上ケルノデゴザリマス、外國ト生産力、勤ノ比較、丁度今申上ケル通りニ産額ハ殖エマシタ、輸出税ヲ全廢シタラ産額ハ殖エマセウ、産額ノ殖エル目的ハ夫レニ應ジテ利益ガ欲シイノデゴザリマス、産額ガ殖エテ損ヲスル様ナコトナレバ決シテ産額ヲ望ムモノデナイ、實ニ非常ナ損デゴザリマス、茶富モ僅ノ間ニ數萬町歩殖エル、價ハサウ云フ譯ニ往カナイト見タ時ハ實ニ無駄ナ勤ヲシテ居ルノデゴザリマス、丁度はレデゴザリマス(圖ヲ示ス)日本ノ國力ハ依然トシテ居リマス、學識其他ノコトハ餘程固定シテ居リマス、其固定資本ガ勤ク、勤カナイ、勤クノト勤カナイノト實ニ今日ハ大事ナ時デ其結果ヲ見ナクテハナラヌ、餘程固定シテ居ルモノガゴザリマスガ、其利益ヲ現ニ收ムル點ニ至ッテハ實ニ今日ハ危急ト言ハ子バナラヌ、國力ハ依然トシテ居ル、産額ハ殖エル、利益ハ劣ル、産額ハ殖エル、利益ハ劣ル、丁度茶ノ例ヲ以テ申上ケタ通りデゴザリマス、他ノ國ハ和蘭ノ國ト云ッテモアレ丈ケノ世界ノ隱居見タイナ國デアッテモ僅カ十五年間ノ進歩ハ國力三億三千萬圓ノ進歩、獨逸ノ如キハ四十七萬圓餘、合衆國ノ如キハ百二億萬圓ノ進歩、ドウデゴザリマス、此敵ガ左右ニ面ヲ取卷イテ居ッテ僅ノ商人ノ喜ブタメニ輸出税ヲ全廢スルコトハ日本ノ形勢即チ其物が許サヌ所デゴザリマス、故ニ此十八年間殆ド晝夜怠レルコト出來マセヌ、夫レニ從事シテ居ッテモ中々十分ノ調査ハ出來マセヌガ、先ヅ二十七年ニ至ッテ始メテ或ル分ノ結果ヲ見ル様ニナリマシタ、其丁度はレガ(圖ヲ示ス)横濱神戸ノ居留地即チ城ト言ハ子バナラヌ、皆此處デ討死シテ居ル、日本ノ生産家商人デゴザリマス、此處デ討死シテ居ルノデゴザリマス、故ニ日本人ノ外國ハ即チ此居留地デアッテ決シテ眞ノ外國ノ需用者デナイノデゴザリマス、故ニ日本ノ政事家ハ始終其城ニ往キ失敗スル、蠟、織物、漆器、陶器、紙、皆此處ニ往ッテ此城ヨリ需用地ニ皆往クノデゴザリマス、此城ヨリ始メテ日本品トシテ往クノデアッテ、日本品何某ノ商品ト云フコトノ名ハ此處デスッカリ死ンデ仕舞フノデゴザリマス、茶デモ絲デモ何デモ殆ド此處デ死ニ盡スノデ、始メテ此居留地人ガ日本輸入、日本商人、日本ノ製造人ニ即チ此外國人デゴザリマス、日本商人ニ利益スルトカ日本生産家ニ利益スルトカ云フコトハ決シテ今日此輸出税出來ルコトデハゴザリマセヌ、故ニ此度此絲ガ横濱ノ城ニ往ク中々幾分カ需用地ニ往カセル、日本ノ茶モ居留地ニ討死スルノモ幾分カ直接ニ需用地ニ往クト云フハ赤線ハ日本製茶家ガ日本製茶ノ名ヲ以テ外國ノ需用地ニ往ッテ飲ムト云フ、故ニ此日本、外國ノ地ニ往ッテ日本ノ大和或ハ日本ノ静岡ノ茶ヲ吳レト云フモノモ一人モ静岡大和ト云フ茶ヲ知ッテ居ル人ハゴザリマセヌ、日本ニハ是レハ獨逸ノふ

らねる、是レハ獨逸ノびーる、是レハ佛蘭西ノ葡萄酒、是レハぼるど杯ト云ッテ飲ンデ居ル、ケレドモ日本ノ品ハ賣ル人造ル人悉ク皆居留地ノ外商ト云ハナケレバナラヌ、故ニ今日此輸出税ヲ全廢スルニ代ヘテ十分ニ御調査ナリマシタナラバ始メテ此輸出税ダケノ物が斯ク斯クノコトニ費サナケレバ此日本ハドウ末ニナッテ來ルカト云フコトハ其結果ヲ御見ナサルコト考ヘマス、續イテ明日マデモ論ジ續ケタイト思ヒマスケレドモ近來此咽喉ト胃ヲ痛メテ居リマシテ中々長ク話スルコト退屈シマスカラ又後程改メテ申上ゲマス、
○田中芳男君 議長、

午後零時三十分休憩

午後一時三十一分開議

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 男爵伊達宗敦君外一名ヨリ提出セラレマシタル國庫剩餘金支出ニ關スル質問ニ對シマシテ今日政府ヨリ答辯書ヲ受領致シマシタ、書記官長ヲシテ朗讀致サセマス、
〔中根書記官朗讀〕

貴族院議員男爵伊達宗敦君外一名ヨリ國庫剩餘金支出ニ關スル質問ニ對シ大藏大臣ヨリ答辯書提出ニ付及御回送候也
明治二十七年六月二日

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿
内閣總理大臣伯爵 伊藤博文

貴族院議員男爵伊達宗敦君外一名提出國庫剩餘金支出ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候也
明治二十七年六月二日

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿
大藏大臣 渡邊 國武

貴族院議員男爵伊達宗敦君外一名提出國庫剩餘金支出ニ關スル質問ニ對スル答辯書

國庫剩餘金ヲ以テ豫算外若クハ豫算超過ノ支出ヲ爲スニ付テハ憲法ハ何等ノ規定ヲ設ケタルコトナシ政府ハ豫算ナキノ故ヲ以テ國家ノ急務ヲ忽諸ニ付スルヲ得サルヨリ之ヲ支出シ憲法第六十四條第二項ニ依リ帝國議會ノ承諾ヲ求メタルモノナリ

右及答辯候也

明治二十七年六月二日

大藏大臣 渡邊 國武

〔左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ此ニ載録ス〕

國庫剩餘金支出ニ關スル質問

明治二十六年度歳出豫算中糧食費、馬匹費、北海道廳在監人諸費、府縣恩賞及救助費外四件、軍人恩給、受繼電信料、北海道廳府縣救助費外二件、諸拂戻金、滯納及犯則者處分費等ノ豫算ニ不足ヲ生シ及和歌山愛媛岡山鳥取島根大分六縣水害費補助トシテ支出ヲ要スルモ第一第二豫備金拂切ニ付國庫剩餘金ヨリ支出ノ旨去二月及三月中官報ヲ以公示セラレタリ右豫備費ノ不足ヲ國庫剩餘金ニ資リ以テ之ヲ補給シ得ルコトハ何等ノ法條ニ根據シタルカ右議院法第四十八條ニ依リ政府ニ對シ及質問候也

明治二十七年五月十六日

質問者 男爵 伊達 宗敦

贊成者 公爵 藤村 紫朗

外四十三名

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 唯今政府ヨリ通牒ヲ受領致シマシタニ依ッテ書記官長ヲシテ朗讀致サセマス、

〔中根書記官長朗讀〕

東京砲兵工廠据置運轉資本増加ニ關スル法律案
右ハ緊急事件トシテ議決相成度此段及請求候也

明治二十七年六月二日

內閣總理大臣伯爵 伊藤 博文

貴族院議長侯爵蜂須賀茂詔君

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 東京砲兵工廠据置運轉資本増加ニ關スル法律案特別委員會ニ於キマシテ委員長ニ三浦安君、副委員長ニ子爵伊集院兼寛君當選ニナリマシテゴザイマス、午前ノ會議ヲ繼續致シマス、

〔子爵谷干城君及尾崎三良君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 谷子爵ハ……

○子爵谷干城君 是レヨリ豫算委員會ヲ開キタイト思ヒマス、御許シニナリマスカ、

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 定足數ニ差支ハナイト存ジマス、

〔尾崎三良君演壇ニ登ル〕

○尾崎三良君 輸出稅廢止法案ニ附イテハ前田君ヨリ熱心ナル反對論ガ出マシテ已ムヲ得ズ玆ニ一言述ベニヤナラヌコトニナッテ參リマシタ、尤モ最早皆備餘程御倦怠ノ氣味デアリマスカラ長クハ述べマセヌガ、前田正名君ノ御演說ハ如何ニモ熱心ナ御演說デアッテ、且ツ數年來此事ニ從事セラレタル御熱心ノ程甚ダ感心致ス譯デアリマス、又此統計的ノ我が物產上ノ景況ニ付イテモ夫ク詳シク述べラレマシテ我々モ大ニ得ル所ガアッテ之ニ附イテハ感心ヲ致シマスルガ、殘念ナガラ此輸出稅廢止ニ對スルコトニ附イテハ格別關係ハナイコトデアラウト考ヘルデゴザンス、モウ長クハ申シマセヌガ二三箇條書留メテ置イタコトガゴザンスルカラ其要領ダケニ附イテ意見ヲ述べテ諸君ノ御賛成ヲ仰ギタイ、前田正名君ハ第一ニ國家ノ事ハ自分一己ノ考ヘデハイカナイト云フ御說デアリマシタ、無論一己ノ考ヘデ何モカモシヨウト云フ譯ニハ參リマセヌケレドモ、併ナガラ此議場ニ於テ諸君ノ御考ヘモ矢張り一己ノ考ヘデ御極メニナルコトデアラウト考ヘル、其一己ノ意見ガ果シテ國是ニ協ヘバ即チ夫レガ宜シイノデアアル、ダカラ一己ノ意見ダカラ惡リト云フコトハ言ヘナイ、夫レカラ色々御論モアリマシタケレドモ其中要領ナ點ハドウデアアルカト言ヘバ、コノ今日ノ世界ハ即チ貿易ノ競爭ノ世界デアルト、依ッテハ我國モ我が產物ヲ盛ニシテ澤山海外ニ輸出セニヤナラヌト云フコトハ、コリヤモウ我々モ固ヨリサウ云フノデアアル、夫レ故ニ輸出稅ヲ全廢シタイト云フノデアアル、其要點ハドウ云フコトデアアルカト云ヘバ三箇條並ベテ御話ニナッタ様デアリマスガ、其一箇條ハ恣レマシタガ第一ニハ輸出ヲ獎勵シナケリヤナラヌ、夫レカラ第二ニハ輸出品ヲ成ルベク安クシテ海外ニ競爭チスル様ニセナクテハナラナイト斯ウ云フ御論デアッタ、今一ツハ何ダッタカ恣レマシタガ、マア恣レタコトハ仕方ガナイトシテ、無論此輸出ヲ獎勵スルト云フコトハ我々最モ熱心ニ贊成スルノデアアル、夫レ故ニ其獎勵スル一端トシテ輸出稅ヲ全廢シタイト斯ウ云フノデアアル、又輸出品ヲ成ルベク安クシテ海外ニ競爭チシナケレバナラヌト、是レモ我々ノ熱心ニ望ム所デアアル、夫レ故ニ此輸出稅ヲ廢シタナラバ夫レ丈ケハ安ク賣レルト、斯ノ如ク前田君ノ論ニシマシテモ我々ノ輸出稅ヲ廢スル論ニ歸著スルノデアアル、夫レカラ段々色々ノ物品ノ性質ニ附イテ御教諭ガアリマシタガ、殆ド是レハ實業取調ベノ報告トデモ云フベキモノデアッテ、決シテ此輸出稅全廢ニ對シテ反駁シタト云フ

コトニハ少シモ當ラナイ、其實業取調ベニ附イテノ御報告ニ至ッテハ如何ニモ精密デアッテ我々感服スル所デアアル、然レドモ如何セム輸出税ヲ廢スルコトニ附イテハ少シモ成ル程ト云フ感覺ヲ與ヘナイ、段々物品ノ事ニ附キ夫々細ク繪圖等ヲ示サレテ我々未熟ナ者ニ教ヘルガ如ク繪圖等ヲ示サレマシテアリマシタガ、我々ハ夫レ程ニハ詳シクハ存ジマセヌガ併ナガラ大體ニ附イテ聊カ調ベタコトモアルノデゴザイマス、其述ベラレタ所ニ我ガ日本特有物品ト且ツ其普通ノ物品トアル、是レハマア固ヨリ分ッテ居ルコトデアリマスガ、一體言フチフト、特有物品ニハ多少輸出税ヲ掛ケテモ餘所ノ國ニ競争スル者ガナイ故ニ格別輸出ニハ障ラヌト云フ方ガ本當デアラウ、此普通物品ニハ却ッテ餘所ノ國カラモ段々ト輸出チスルニ依ッテ我國バカリ輸出税ヲ掛ケレバ夫レ丈々高クナルト云フコトハ是レハモウ數ノ上免レザルコトデアアル、然ルニ其特有物品デモ矢張り輸出税ヲ廢スレバドレ丈々海外ヘ餘計出テ行クト云フコトハ此統計上免レザルコトデアアル、夫レチ一ツ大體ヲ申セバ我紙ノ如キモノノ竹器漆器ノ如キモノ、是レ杯ハ以前ハ輸出税ガアッタノデシタガ段々ト税ヲ廢セラレテカラ著シク輸出ガ増加シテ居ル、即チ紙類ノ輸出税ヲ明治十二年ニ廢セラレテ居ル、其時ニハ紙ノ輸出ト云フモノハ僅ニ五萬千圓位ノモノデアッタ所ガ翌年ニハ九萬四千圓、其翌年ニハ十萬九千圓、其又翌年ニハ十七萬圓ト云フ様ナ譯ニ段々此輸出税ヲ免シタニ附イテ輸出ガ殖エテ居ル、是レハ爭フベカラザル事實デアアル、其他硫黃、絹布、石炭、摺附木、漆器ノ類ノ如キハ、陶器、竹器漆器ノ如キハ皆其例ニナッテ居リマスガ、一々玆デ並ベ舉ゲルト諸君モ御退屈デアリマセウカラ申上ゲマセヌガ、石炭ノ類ノ如キモ明治二十一年ニ始メテ石炭ノ輸出税ヲ免ジタ、明治二十年マデハ其價ガ僅カ四十九萬六千圓ト云フモノデアッタガ明治二十一年ニ至ッテ、其輸出税ヲ免ジタ當時ニ至ッテ百萬圓カラニ上ッテ居ル、其翌年ハ二百三十萬圓、其又翌年ハ二百五十萬圓ト云フ様ナ譯ニナッテ、マア今日ハモチット澤山ニ上ッテ居リマスルト考ヘマスルケレドモ唯今書類ヲ持チマセヌカラ確トハ申シマセヌ、デ之ヲ要スルニ我國カラ出ストキニ、品物ヲ出ストキニ、入費ガ少ク掛レバ夫レ丈々向フヘ行ッテ安ク賣レルト云フコトハコリヤ一モウ決シテ爭フベカラザル事實デアッテ、此點ニ於テハ如何ニ反對論者ト雖モ異論ハナカラウト思ヒマス、唯此ニ一ツノ少シ深ク研究シナイ人ハ一チ聞イテ或ハドウデアラウカト云フ迷チ生ジルノハ此我ガ日本人ハ其品物ヲ直様ニ輸出シナイ、夫レ故ニ其税ト云フモノハ外國人ノ手カラ拂フノデアアルト、斯ウ云フコトガアル、サウシテ見ルト其税ト云フモノハ外國人ノ手カラ出ルノデアアル、日本人ノ腹カラハ税ハ出ナイノデアアルカラ少シモ關係ハナイト斯ウ云フ論ニナリマスルケレドモ、是レハ甚ダ皮想ノ論デアッテ少シモ實際ヲ研究シ

タモノデハナイト思ヒマス、假令外國人が拂フニ致シテモ夫レ丈々外國人が税ヲ拂ハナケレバナラナケレバ外國ヘ持ッテ往ッタトキニ夫レ丈々高ク賣ラナケレバナラヌカラ自然ニ物品ガ滯滯スルト云フコトハ是レハ免レザルコトデアアル、夫レカラ我國ノ商業ト云フモノハ兎角ニソノ外國人ノ機嫌ヲ取ッテ買ッテ賣フト云フコトヲコチカラ請願スルト云フ様ナ鹽梅シキデアアルニ依ッテ到底其代價ヲコチラノ權利デ極メルト云フ譯ニハイカナイ、幾ラ輸出税ヲ全廢サレタカラト云フテモ夫レ丈々内地ノ商人ガ得チスルト云フ譯ニハイカナイ、サウ云フ御論デゴザイマシタガ、其ノ證據ニハ段々安政年度ノ御話ヲ引カレマシタガ、成ル程其頃ニハ我ガ日本人ハ外國ノ事ヲ何ニモ知ラナイデ、茶ガ百斤二十圓デアアルト言ヘバ成ル程サウデアラウ、絲ガ百斤三百圓デアアルト言ヘバ成ル程ソナモノデアアラウト云フノデ已ムコトヲ得ズ向フノ言フナリ放題ニ賣ッタンデアリマスケレドモ、今日ノ日本人ハ決シテソナモノデハナイ、今日ノ日本人ハ安政萬延時代ノ日本人トハ同ジニ御論ジニナッテハ大變ナ間違デアアル、若シ斯ノ如ク日本人ニ少シモ權利ノナイ代價ノ點ニ至ッテハ向フノ付ケ次第ニ賣ルト云フコトニナリマスレバ今日橫濱デ生絲ガ上ガッタリ下ガッタリスルコトハナイノデアアル、紐育デ生絲ノ相場ガ上ルト云フト矢張り橫濱デモ生絲ノ相場ハ上ルトデアアル、是レガ何ヨリノ證據デアッテ、各外國人が價ヲ付ケ次第ニ賣ルト云フナラバ、紐育デ生絲ノ相場ガ上ッデモ橫濱デハ上ラヌト云フコトデアアルカト云フニ決シテサウデナイ、事實サウデナイ、紐育ノ相場ガ上ガレバ我國ノ絲ノ相場モ上ッテ來ル、チャント殆ド平均ノ所マデ往クデハアリマセヌカ、ソナ譯デアリマス、シテ見レバ此輸出税ハ外國人が拂フニ依ッテ我ガ生産者ハ利益ガナイト云フコトハ九段取ルニ足ラナイ御論デアアル、又茶ノコトニ附キマシテモ成ル程橫濱デ色々ナ製法ヲ得テ我國ノ製茶ノ儘デハ外國ニ往カナイト云フコトハ豫テ聞イテ居リマス、然レトモ其茶ハ矢張り日本デア買フ以上ハ輸出スルトキハ夫レ丈々ノ税ヲ拂ハナケレバナラヌ、税ヲ拂ヘバ夫レ丈々高ク賣ラナケレバナラヌ、高イ物ヲ買ハナケレバナラヌト云フコトハ是レハ數ノ分リキッタコトデアアル、實業家ハ却ッテ前田正名君ノ說ニハ同意シテ居ラヌ、御熱心ニ方々チ奔走サレテ演說セラレテ居ル其御熱心ノ程ニハ感服スルケレドモ如何セム間違ッテ居ル、ト云フモノハ現ニ昨年デシタカ静岡前田君ガ茶ノ輸出税ヲ廢スルニハ及バナイト云フ論ヲ段々述ベラレテ、其代リ輸出税ニ當ル丈々ノ金額ヲ茶業ノ製造人ニ保護シテ貰ヘバ宜イデヤナイカト云フ說ガゴザリマシタ、所ガ静岡縣ノ段々茶業ニ從事スル人ハマア其節ハ謹聽シテ居リマシタガ、ハテナト考ヘテ居リマシタ、一向夫レニハ感服セヌモノト見エマシテ昨年ノ議會ニ續々輸出税全廢ノ請願ヲシテ來ル者ガ静岡縣ノ者ガ澤山請願シテ來ル、其中ニハ隨分

重ナ人モ澤山這入ッテ居ル、シテ見レバ多年實業ニ從事スル人サヘ格別其論ニハ感服セヌモノト見エ、夫レカラ此輸出稅ト云フモノハドレ程外國へ輸出スルニ對シテ影響ガアルカト云フコトハ諸君モ御承知デアリマセウガ、前年佛蘭西ト伊太利ト競爭致シテ伊太利デハ獨逸ト同盟ヲ結ンデ佛蘭西ト反對ノ地位ニ立ッタ場合ニ於テ佛蘭西ハ是レガ報酬トシテカラニ百斤ニ附キ十六圓ニ當ル金額カノ稅ヲ掛ケタ、夫レハ輸入稅デアリマスガ、所ガ伊太利ハ御承知ノ通りニ一體財政困難ノ所デ夫レガタメニ大分謀叛モ起ッテ居ルト云フ國柄デ餘程稅ヲ取ルニハ苦ンデ居ル國デア、然ルニ今度輸出稅ヲ三割ト掛ケテ夫レデ我國デハ僅ニ五分ノ一デア、其稅ガ掛ッテ居ッタ所ガ輸入稅ハ掛カル自分ノ國デハ輸出稅ヲ掛ケラレル、迎モ伊太利ノ生絲ハ成立タヌト云フマ、有様デアリマシテ、段々伊太利ノ生産者ガ政府ニ迫ッテ終ニ此伊太利デハ輸出稅ヲ廢スルコトニ致シマシタ、其時我國ノ生絲ハ非常ニ佛蘭西ヘ往ッタト云フコトデゴザイマス、ト云フモノハ伊太利ノ生絲ハ斯ノ如ク輸入稅ヲ掛ケタケレドモ我國ノ生絲ニハ格別掛ケナカッタ見エマシタ、シテ見ルチフト若シ是レガ橫濱ノ輸出稅ヲ外國人ガ拂フニ依ッテ夫レハ日本人ノ腹ノ痛ニナラヌト云フコトナラバ佛蘭西ヘ往ッテ佛蘭西ノ輸入稅ヲ拂フト云フコトナラ尙更我國ノ痛ミニナリサウモナイモノデア、ケレドモ忽ニ伊太利ノ生絲ニ輸入稅ヲ掛ケタ故ニ我國ノ生絲ガ佛蘭西ヘズンズン往クコトニナッテ夫レガタメニ伊太利、殆ド失敗シタ、伊太利ノ生絲業者ハ皆破產シタト云フ位ノコトデアリマス、若シ前田君ノ說ニスレバ又我國モ輸出稅ヲ廢スルノハ早ク輸出稅ヲ廢シタ所ガ少シモ我が日本人ノタメニナリ、皆外國人ノ利益ニ歸スルノダト云フ話ナラバ其論點ヲ推シテ見マスレバ今日既ニ廢シタ所ノ石炭ノ輸出稅其他ノ輸出稅マデモ又舊ニ復スルガ國家ノ利益ト言ハ子バナラヌ、所ガソナリ理窟ハ中々立ツマイト思フ、然レドモ前田君ノ御說ニスレバサウナッテ來ルノデア、又米杯モ明治六年以前ハ九デ嚴禁シタノデアッタ所ガ是レハ今デハ九デ無稅デ輸出スルコトニナッテ居ル、是レ等ハ外國人ガ重ニ輸出スルニ依ッテ大抵神戶橫濱ノ外國人ト約束シテ輸出スルノデア、夫レ等モ輸出稅ヲ掛ケタナラバ夫レ丈々國家ノ歳入ヲ増シテ我國ノ輸出ニ影響ヲ及ボスコトハ懷手ナシテ損スル所ナクシテ得スル所ガアレバステキニ宜シイコトデハゴザイマスガ、米ニ稅ヲ掛ケルト云フト必ズ米價ガ下落スルデアラウト思フ、若シサウ云フ論ガ起レバ竹器漆器等モ輸出稅ヲ掛ケナケレバナラヌト云フコトニナル、然ルニ是レハ輸出無稅デ輸出ヲ許シテアルノハ即チ輸出ヲ獎勵スル譯デアラウト思ハレル、今日米ノ高イノハ夫レ他ニ色々原因モアリマセウガ銀貨ノ下落シタ原因モアリマスケレドモ……夫レカラ明治十三年ニ橫濱ニ於テ正金銀行ガ出來タ、其節ニ輸出ヲ獎勵スルト云フ

積リデ正金銀行ガ外國ノ爲替ヲ開イテ大イニ之ヲ獎勵致シマシタ、其節ニ橫濱ノ此外國ト取引スル商人等ハ非常ニ反對ヲ致シマシタガ、是レハ甚ダ譯ノ分ヲヌ人間デアッテ、其時ハ頻ニ反對ヲ致シタガ今日デハ自ラ直輸出ナシナケレバナラヌト云フノデ類ニ其事ニ骨ヲ折ッテ居ルト云フ斯ウ云フ御說デアリマシタガ、丁度我々ノ考ヘデハ今日此輸出稅ヲ廢スルト云フコトハ丁度アノ頃ニ直輸出ヲセシバナラヌト云フ事柄トハ事柄ハ違ヒマスケレドモ同ジ理窟デ其理窟ハ同ジコトデアッテ或ハ其事ニ馴レヌ人ハ輸出稅ヲ廢シタ所ガ役ニ立タヌト今仰セラレテモモウ三五年モ立ッタナラバ必ズモウ輸出稅ヲ廢メテ賈ハ子バナラヌト云フ論ニナッテ來ルニ違ヒナイト思フ、夫レカラ佛蘭西デハ此生絲ニ獎勵金ヲ與ヘル、佛蘭西ハ生絲ヲ最澤山消費スル國デアッテ自分ノ國ニハ生絲ノナイト云フコトハ豫テ經濟家ノ歎イテ居ル所デア、非常ニ獎勵金ヲ與ヘテ關千百斤ニ付テ八十圓ニ當ル所ノ獎勵金ヲ與ヘテ我國ノ生絲ヲ獎勵シテ居ル、夫レヲ輸出稅廢止ニ反對ノ様ニ取ラレマシタガ却ッテ是レハ輸出稅ヲ廢セナケレバナラヌ理由ニナルト思ヒマス、自分ノ國ノ生絲ヲ獎勵金ヲ與ヘテマデモ發達サセニヤナラヌ、發達サセニヤナラヌノナラバ何シニ此物品ガ外國ヘ出テ往ク邪魔ニナル輸出稅ヲ掛ケルト云フ理由ガ出テ來マセウカ、我々ハ獎勵金ヲ與ヘル前ニ輸出稅ヲ廢セニヤナラヌ、夫レデマダ發達シナケレバ獎勵金ヲ與ヘルモ可ナリ、然レドモ輸出稅ヲ掛ケテ置イテ出テ往ク道ニ或ル妨ゲノモノヲ置イテ、サウシテ獎勵金ヲ與ヘルト云フ理窟ハ立タナイ、斯ノ如ク獎勵金ヲ與ヘテモ我國ノ物産ハ發達サセニヤナラヌト云フ世ノ中ニ此商業ノ發達ノ邪魔ニナル輸出稅ヲ存シテ置カナケレバナラヌト云フ理由ハ少シモナイ、夫レカラ今日輸出稅ヲ廢スル丈ケノ國庫ニ餘裕ガアルナラバ其金ヲ以テ我國ノ産業者ヲ保護シテ賈ヒタイト云フ御說ガアッタノデ、是レハ我々ハ同意ハ出來ナイ、或ル産業者ヲ保護スルト云フコトハ成程其一部分ハ大ニ利益ヲ被ルニ違ヒナイ、ケレドモ其保護ヲ受ケナイ者ハ非常ニ迷惑ナスルノデ、是レマデ隨分其例ガアリマス、政府ノ保護金ヲ貰ウテ商賣スル人間ハ即チ其僅ナ區域ノ人間ハ非常ニ利益ヲ受ケマスガ、夫レガタメニ他ノ人間ハ例レテ仕舞フト云フ例ハ往々アル、我々ハ一部ノ人ニ保護金ヲ與フルコトハ甚ダ不同意デア、勿論或ル物品ニ就イテ外國トノ貿易ヲ獎勵セニヤナラヌニ依ッテ唯置イトイチャ、迎モ發達シナイト云フ場合ニハ或ハ幾ラ幾ラ輸出シタ時ニハ其割合ニ應ジテ幾ラノ獎勵金ヲヤラウト云フ様ナコトナレバ或ハ事ニ依ッタラ同意スルカモ知レヌ、ケレドモ或ル一部ノ組合トカ一部ノ商賣人トカ云フモノニ金ヲヤルト云フコトハ甚ダ善クナイ、是レハ是レマデモ段々例ガアル、夫レカラ我國ハ今日ノ如ク物産ガ發達シナイデハ外國ト競爭スルコトガ出來ヌカラト云フノデ段々外ノ例ヲ引カレマシタガ、伊

太利杯ハ此生絲ノ業ガ日本ヨリ後トカラ起ツタケレドモ日本ヨリハ安ク出來ル、斯ノ如キ有様デハ我國ハ迎モ外國ト競争スルコトハ甚ダ難イニ依ッテ之ヲ獎勵シニヤナラヌト、是レハ我々モ同感デアル、其獎勵ナルニハ成ル程内地ノ生産者ヲ保護シテ其製法ヲ改良スルコト云フコトモ必要アリマセウケレドモ、外國ノ品物ト競争スルニハ成ルベク安クセヌト競争ハ出來ナイ、シテ見レバ先ヅ第一ニ輸出税ヲ廢セヌナラヌ、伊太利ハ既ニ廢シテ居ル、伊太利ハ一體ニ税ハ重クテ人民ガ堪ヘ難イ、既ニ近日モ謀叛人ガアッテ困難シテ居ル様ナ有様デアル、然ルニ此輸出税ダケハ有害無益ト云フ斷定ヲ下シテ廢シテ居ルノデアル、我國ハ夫レトハ違ウテ年々六百萬八百萬ト云フ剩餘金ガアルノニ何ヲ苦シデ之ヲ廢セヌカ、之ヲ廢スレバ其翌年若クハ翌々年アタリハ勿論多少國庫ノ金ガ減ルデアラウガ、其代リハ漸々人民ガ富ンデ輸入税ガ増シテ來ルカラシテ數年立テバ此税ヲ減ジタ位ノ損ハ償ウテ來ルニ違ヒナイ、依ッテ前途ノ富國強兵ヲ希望スルナレバ速ニ此輸出税ヲ廢シテ其物產ノ成ルベク澤山海外ヘ出ル様ニナルコトヲ希望スルノデアル、夫レカラ輸出税ヲ廢スレバ物ガ粗製ニナッテ唯ダ澤山出來ルダケヂャト云フ説ガアリマシタガ、成ル程時トシテハサウ云フ事モアルカ知レヌ、夫レハ税ヲ廢スレバ錢ガ儲カルニ依ッテ其方ヘ力ヲ費ヤシテ物品ヲ製造スルコト云フコトハ勢ノ免レヌコトデアル、丁度鐵道ニ利益ガアルト云ヘバ其程度ヲモ計ラズシテ濫ニ其方ヘ資本ヲ放下スル、然レドモ夫レガタメニ國家ノ不利益カト云ヘバ決シテサウ云フコトハナイ、吐ケ口ノ目的モナイノニ無暗ニ製造シタ人ハ困ルニ違ヒナイケレドモ永年ノ間ニハ吐ケ口ガ出來テ我國ノ物產ガ夫レ丈々殖エルニ違イナイ、一番早イ證據ハ有税品ト無税品ノ年々増加スル割合ヲ此處デチヨト一言述ベマシタナラバ御分リ易イト思ヒマス、有税品ノ輸出ノ割合ハ即チ明治二十一年カラ二十六迄ノ間ニ僅カ百分ノ十二ノ割合デ上ッテ居ル、無税品ノ方ハドウカト云フト百分ノ八十六強ノ割合ニナッテ居リマス、斯ノ如ク無税品ト云フモノハ年々輸出ノ殖エル度が大變速ニ上ッテ居ル、輸入品モ夫レハ殖エテ居ルニ違ヒナイ、減リハセヌケレドモ殖エル度ガ甚ダ遲緩デア、五年間ニ有税品ノ輸出ノ殖エ方ハ百分ノ十二ノ割合、無税品ノ方ハ百分ノ八十六、殆ド倍ヅ、ノ殖エ方ニナッテ居ル、夫レハ我國ノ輸出税ヲ廢シタ所デサウ直ニ全ク夫レ丈々我國ノ利益ニハナラヌト云フ話モアルカ知レマセヌガ、結局ノ所税ガナクナレバ其品物ハ餘計出ルト云フコトハ數ノ免レザル所デアルカラ、ドウカ此見易キ道理ニ御賛成アラムコトヲ希望致シマス、マダ段々申シタイ事モアリマスケレドモ段々長クナリマスカラモウ是レ位デヨシマス、

○前田正名君 議長、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 前田君ハドウ云フ御發議デゴザイマスカ、
○前田正名君 尾崎君ノ言葉ニ大變間違ッテ居ル所ガアリマスカラ一言致シタイ、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 併シ御意見ヲ御述ベニナルナラ二回ハ出來マセヌ、二回ノ御發言ハ出來マセヌ、

○前田正名君 間違ッテ居ル所ダケヲ申シタイ、
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 注意ヲ爲サルノハ宜シイ、質問トカ或ハ御注意ニナルトカ云フコトナラバ夫レ丈々ノ所ハ宜シウゴザイマス、

○前田正名君 質問デモ宜シウゴザイマス、此處カラ申シマセウ、併シ言殘シタ所ガゴザイマスカラ演臺ニ御許シ下サルコトハ出來マセヌカ、
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 夫レデハ意見ヲ述ベル即チ發言ノ方ニナリマスカラ夫レハ規則ニ背キマス、

○前田正名君 宜シウゴザイマス、尾崎君ニ一言御斷リナシテ置キマス、言葉ノ惡ルカタタメニ大變間違ッテ聞カレテ所ル居ガゴザイマス、第一輸出商ヲ利スル事、輸出品ノ増額、價ヲ廉價ナラシメテ外國市場ニ競争ヲ致スコト、是レハ輸出税全廢家ノ目的デアルト云フコト決シテ自分ノ意見デハアリマセヌ、是レガ間違デアル、輸出商ヲ利スルコトハ日本、今日輸出品其物ノ許ス所デゴザイマス總體ニ利スル所ガ日本ノ國是デゴザイマス、一二ノ商ヲ利スル所ガ今日日本ノ生産家ノ許ス所ト云フコトハ申シマセヌ、第二輸出品ハ増額ハ致スケレドモ或ル物ハ出來ナイ、ナゼ出來ナイカト云ヘバ茶ニシテモ御承知ノ通りニツノ柱トモ云フベキ絲茶ハナシボ安ク賣ッテモ需用者ガ限リガアル、安ク賣ッタト決シテ產額ヲ殖ス道理ハナイ、其證據ハ御覽ノ通り石炭、ふらねる、米ト云フ様ナ物ト違ヒ、需用者ガ日本絲茶ヲ飲ム所ハ此赤キ所デ(圖ヲ示ス)紅茶ヲ飲ム所ガ此黃ナ所デゴザイマス、ナンボアナタ方ガ安ク賣ルト決シテ產額ヲ殖スコトハナイ、生絲モ決シテ安ク賣ッタト產額ヲ殖スト云フコトハムヅカシイ、需用者ノ注文ガドウゾ夫ノ粗製濫造ヲセズニ真正ノ物ヲ持ヘテ吳レヨ價ハ構ハヌト云フ……

〔尾崎三良君アレガ質問デゴザイマス、若シ質問ナラ一ツツ、答ヘヤウト思ヒマス〕ト述ブ

是レハアナタノ間違ッタ所ヲ申スノデアリマス、絲ハ安イカラ澤山出ルト云フモノデナイ、ドウゾ佛蘭西伊太利ノ如ク絲ヲ長クシテ賣ッテ吳レト云フ亞米利加機屋ノ注文デ、安ク買フカラドッカリ送ッテ吳レイト云フコトハ毫モ注文ガナイガ御承知デゴザイマス、例ヘバ……
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) ドウモ御質問トモ承リマセヌノデゴザイマス、少シ規則ニ外レル様ニ思ヒマスカラ御質問ナレバ御質問ノ範圍デ御述ベ

ニナル様ニ……

〔尾崎三良君質問ナレバ其度毎ニ御答ヘテ致シタイ、餘リ長クナルト忌レマスカラ、夫レトモ議論ナラバ議論ノ様ニ規則ニ據ッテヤルガ宜イト述ブ〕

○前田正名君 規則ニ束縛セラレテハ一言モゴザイマセヌガ、實ニ今日ノ日本生産家即チ日本國力ノ上ニ於テ是レ丈ケ大事ノコトハナイノデゴザイマスカラ規則ヲ犯シテモ御話シタイ様ニ考ヘマス、

○議長〔侯爵蜂須賀茂韶君〕 夫レハイケマセヌ、

○男爵小澤武雄君 本案ハ随分調査モ要スルコトデアラウト思ヒマスニ依ッテ是レハ特別委員ニ付託シ且ツ其委員ノ選舉ハ議長ノ指名ヲ煩スト云フコトヲ提出致シマス、

○子爵板倉勝達君 小澤男爵ニ賛成、

○子爵小笠原壽長君 小澤男爵ニ賛成、

○男爵榊原素彦君 小澤君ニ賛成、

○田中芳男君 此案ニ附イテハ本員モ聊カ考ヘガアリマスガ、併シ夫レデモ短イ時日ニ此所ニ口頭デ戰ッテモ仕方ガナイ、篤ト調査スル方ガ宜カラウト思ヒマスカラ委員ニ託スルト云フ小澤男爵ノ動議ニ賛成致シマス、

○議長〔侯爵蜂須賀茂韶君〕 小澤男爵ノ委員ヲ設ケル、其委員ハ議長ヨリ定數ノ委員ヲ指名スルト云フ小澤男爵ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長〔侯爵蜂須賀茂韶君〕

過半數デゴザイマス、次ニ府制法案、男爵渡邊清君外二名發議……

○三浦安君 議長

○議長〔侯爵蜂須賀茂韶君〕

三浦君ハドウ云フコトデゴザイマスガ、

○三浦安君 東京砲兵工廠據置運轉資本増加ニ關スル法律案ハ緊急ニ依リマシテ議事日程ヲ變更シテ此際之ヲ議セラレムコトヲ望ミマス、

○松本鼎君 賛成、

○岡内重俊君 賛成、

○子爵小笠原壽長君 賛成、

○男爵伊達宗敦君 賛成、

○伯爵大原重朝君 賛成、

○湯地定基君 賛成、

○鹿毛信盛君 賛成、

○子爵伊集院兼寛君 賛成、

○議長〔侯爵蜂須賀茂韶君〕 三浦君ヨリ議事日程ヲ變更シテ東京砲兵工廠據置運轉資本増加ニ關スル法律案第一讀會ノ續ヲ開キタイト云フコトデゴザイマス、賛成ガゴザイマス、三浦君ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長〔侯爵蜂須賀茂韶君〕

過半數デゴザイマス、依ッテ議事日程ヲ變更シテ此案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告、

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ玆ニ載録ス〕

海軍省舊所轄目黒火藥製造所ニ屬シタル物品中其ノ品質、運轉資本ニ屬スヘキモノハ金拾壹萬五千參百貳拾參圓五錢參厘ノ價格ヲ以テ明治二十七年度ニ於テ東京砲兵工廠據置運轉資本ニ増加ス

〔三浦安君演壇ニ登ル〕

○三浦安君 東京砲兵工廠據置運轉資本増加ニ關スル法律案ヲ午前ニ於キマシテ本員等ガ特別委員ニ選定サレマシタニ依ッテ即チ直ニ取掛リマシテ委員席ニ於テ取調ベマシテゴザイマスガ、是レハ午前ニ於テ政府委員ヨリ陳述ヲ致シマシタ通りノコトデゴザイマシテ、己ニ其業ヲ引受ケマシタニ特別會計ノ運轉ノ資本ガ定マリマセヌト動クコトモ働クコトモ出來マセヌト云フ行掛リデゴザイマスルカラ、己ムヲ得マセヌコトハ能ク分ッテ居リマス、即チ質問ヲ致シタ上其譯ガ能ク分リマシタカラ委員會ニ於テハ原案ノ通り可決ヲ致シマシテ御報告ヲ致シマス、己ニ衆議院ニ於テ可決ニ相成リマシタ次第デゴザイマスレバ速ニ御可決ニナラムコトヲ希望致シマシテ委員會ノ成行ヲ併セテ御報告致シマス、

○岡内重俊君 唯今三浦君ヨリ報道致サレマシタ議案ニ附キマシテ議院法第二十七條ニ依ッテ三讀會ノ順序ヲ省客スルコトヲ發議ヲ致シマス、依ッテ定規ノ通り十人以上ノ要求ガアレバ議場ノ問題トナリマス、斯ノ動議ヲ提出致シマス、

○男爵本田親雄君 賛成、

○湯地定基君 賛成、

○安藤則命君 賛成、

○三浦安君 賛成、

○前田獻吉君 賛成、

○子爵林友幸君 賛成、

○子爵堤功長君 賛成、

○伯爵小笠原忠忱君 賛成、

○鹿毛盛信君 賛成、

○侯爵伊達宗徳君 賛成、
○伯爵大原重朝君 賛成、

〔此他「賛成」ト呼ブ者數名アリ〕

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 岡内君ヨリ讀會省署ノ動議が出マシテ定規ノ賛成ガゴザイマス、讀會ヲ省署スルコトニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 三分ノ二以上ト認メマス、讀會ハ省署致サレマシタ、表決ニ付シマス、原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、本案ハ可決セラレマシテゴザイマス、次ニ府制法案、男爵渡邊清君外二名發議、第一讀會ヲ開キマス、是レハ餘程長イ文デゴザイマスカラ通牒文ノミ……提出文ノミ朗讀ヲ致サセマス、

〔有賀書記官朗讀〕

府制法案

右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治二十七年五月三十一日

發議者 男爵 渡邊 清

西村 亮 吉

平田 東 助

賛成者 侯爵 中御門 經明

外三十名

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ此ニ載録ス〕

府制法案

第一章 總則

第一款 府及其區域

第二款 府住民及其權利義務

第二章 府會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 府ノ行政

第四章 府ノ財政

府制

第五章 府行政ノ監督
第六章 附則

第一章 總則

第一款 府及其區域

第一條 此法律ニ於テ府ト稱スルハ東京、京都、大坂及其他特ニ勅令ヲ以テ府ト認メタル市街地ヲ云フ

府ノ區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府ハ財産權ヲ有シ財産義務ヲ負擔シ法廷ニ於テ原告被告トナルノ權利義務ヲ有シ法律若クハ命令ヲ以テ定メタル範圍内ニ於テ内務大臣ノ監督ヲ受ケテ府ノ公共事務ヲ處理シ且ツ其他ノ事務ニシテ法律若クハ命令ヲ以テ府ニ負擔セシメタルモノヲ處理スルノ義務ヲ有ス

第三條 隣接郡市町村ノ全部若クハ一部ヲ府ニ合シ若クハ府ノ一部ヲ分割シテ隣接郡市町村ニ合スルノ必要アルトキハ府會並ニ關係郡市町村會ノ意見ヲ聞キタル後勅令ヲ以テ之ヲ定ム本項ノ處分ヲ爲シタルトキハ縣ト府ノ境界モ又自ラ變更スルモノトス

本條ノ處分ニ付キ關係團體ノ所有財産ヲ分配若クハ合併スルノ必要アルトキハ關係團體ニ於テ協議ヲ遂ケ内務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ若シ協議整ハサルトキハ内務大臣ノ決スル所ニ依ル

本條ノ處分ニ依リ民法上ノ既得權ヲ傷害スルコトヲ得ス

府ノ境界ニ關シテ爭議ヲ生スルトキハ内務大臣之ヲ裁決ス

第四條 府ノ周圍ニ在ル郡市ニシテ府ト密接ナル利害ノ關係ヲ有スルモノ數多アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ爲メ特別ノ縣ヲ設ケ府廳ノ官吏ヲシテ其縣ノ官吏ヲ兼子シムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テモ前條ノ規定ヲ準用スルモノトス

第二款 府住民及其權利義務

第五條 凡府内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其府住民トス

凡府住民タル者ハ此法律ニ從ヒ公共ノ營造物並府有財産ヲ共用スルノ權利ヲ有シ及府ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第六條 凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)府ノ住民トナリ(二)其府ノ負擔ヲ分任シ及(三)其府内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ其府公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス但場合ニ依リ府會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムルニケ年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歳以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受サケル者ヲ云フ

第七條 府公民ハ府ノ選舉ニ參與シ府ノ名譽職ニ選舉セラル、ノ權利アリ又其名譽職ヲ擔任スルハ府公民ノ義務ナリトス

左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 營業ノ爲メニ常ニ其府内ニ居ルコトヲ得サル者

三 年齡滿六十歳以上ノ者

四 他ノ公務ノ爲メ府ノ公務ヲ取ルコトヲ得サル者

五 四年間無給ニテ府吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間府會議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者但府吏員ノ任期四年ヨリ永キトキハ四年經過後本項ニ依ルコトヲ得

六 其他府會ノ決議ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ府會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其府公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其負擔スヘキ府費ノ八分一乃至四分一ヲ増課スルコトヲ得

前項ノ議決ニ不服アルトキハ其議決ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條 左ニ記載スル者ハ府ニ住居セスト雖モ其財產營業若クハ所得ニ賦課スル府ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有ス

一 府内ニ不動産ヲ有スル者

二 府内ニ營業ヲ爲ス者但店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク

三 府内ニ籍ヲ有スル法人

四 府内ニ籍ヲ有スル合資會社合名會社ノ社員

國庫ノ所有ニ係ル財產ノ分擔義務及其定率ニ關シテハ此法律ニ規定シタルモノヲ除クノ外別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三ヶ月以上府ニ滞在スルモノハ府ノ住民ニアラスト雖モ其三ヶ月經過後府ノ負擔ヲ分任セシムルコトヲ得

第九條 府公民タル者第六條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タル權ヲ失フモノトス

キハ其職務ヲ解キ第二項ノ場合ニ當ルトキハ其職務ヲ停止スルモノトス

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ府ノ公務ニ參與セサルモノトス

第二章 府會

第一條 組織及選舉

第十條 府會議員ハ其府ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス府會議員ノ定數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 府公民(第六條)ハ總テ選舉權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セラル、者(第七條第三項第九條第二項)及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

凡內國人ニシテ公權ヲ有シ直接府稅ヲ納ムル者其額府公民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一人ヨリモ多キトキハ第六條ノ要件ニ當ラスト雖選舉權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラル、者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

法律ニ從テ設立シタル會社其他法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

第十二條 選舉人ハ分テ三級トス

選舉人中直接府稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル直接稅額三分一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス

一級選舉人ノ外直接府稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル直接稅額三分一ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ爾餘ノ選舉人ヲ三級トス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其府ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年齡ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

キハ府參事會抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ每級各別ニ議員ノ三分一ヲ選舉ス其被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス三級ニ通シテ選舉セラル、コトヲ得

第十三條 區域廣潤又ハ人口稠密ナル府ニ於テハ府條例ヲ以テ選舉區ヲ設グルコトヲ得但シ特ニ二級若クハ三級選舉ノ爲メ之レヲ設グルモ妨ケナシ

選舉區ノ數及ヒ其區域並ニ各選舉區ヨリ選出スル議員ノ員數ハ府條例ヲ以テ選舉人ノ員數ニ準シ之ヲ定ム可シ

選舉人ハ其住居ノ地ニ依テ其所屬ノ區ヲ定ム其府内ニ住居ナキ者ハ課稅ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム數選舉區ニ亘リ納稅スル者ハ課稅ノ最多キ物件ノ所在ニ由テ之ヲ定ム可シ

選舉區ヲ設クルトキハ本條第一項但書ノ場合ヲ除クノ外其選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツ可シ

被選舉人ハ其選舉區内ノ者ニ限サルモノトス

東京京都大阪ノ三都ニ於テハ從來ノ區ヲ存シテ府會議員ノ選舉區トシ各區ヨリ選出スヘキ議員ノ員數及ヒ將來選舉區ノ新設廢止變更ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 選舉權ヲ有スル府公民第十一條第一項ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ府會議員ノ被選舉權ヲ停止スルモノトス

一 府ノ官吏

二 府參事會員及府ノ有給ノ吏員

三 判事檢事及警察官吏

四 神官僧侶及其他諸宗教師

五 小學校教員

其他官吏ニシテ當籤シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ府會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選トシ若シ同數ナレハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者ノ當選ヲ無効トス

既ニ議員トナリタル後本條ノ緣故ヲ生シタルトキハ年少者府長ノ告知ニ依リ其職ヲ失フモノトス

第十五條 議員ハ名譽職トス其任期ヲ六年トシ每三年各級ニ於テ其半數ヲ改選ス若シ各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任ス可キ者ハ抽籤シテ之ヲ定ム

勅令ヲ以テ府會議員ノ員數ヲ變更スルトキハ其勅令施行後ノ初回ノ改選ニ於ケル切半ノ方法モ併セテ規定スルモノトス

解任ノ議員ハ再選セラレハコトヲ得

第十六條 改選ニ於テ選舉セラレタル議員ノ任期ハ其選舉ノ日ヨリ起算ス但當選ヲ辭スル等如何ナル事故アリテ其選舉ヲ遲延スルコトアルモ最初

公告シタル定期改選ノ日ヨリ起算ス

第十七條 議員中關員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フ可シ若シ定員三分ノ一以上關員アルトキ又ハ府會、府參事會若クハ府長ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖其補闕選舉ヲ行フ可シ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之ヲ選舉ヲ行フ可シ

第十八條 府長ハ選舉人名簿ヲ作り之ニ選舉有權者ヲ記載シ毎年六月中ニ同月ノ現在ニ依リ之ヲ校正スヘシ但選舉區ヲ設クルトキハ每區各別ニ名簿ヲ製ス可シ

第十九條 選舉人名簿ハ七月一日ヨリ七日間府廳若クハ區役所(區ヲ設ケタルトキ)ニ於テ縦覽セシム可シ

若シ選舉人選舉人名簿ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縦覽期限内ニ之ヲ府參事會ニ申立可シ

第二十條 府參事會ニ於テ名簿ヲ修正スヘシト判定シタルトキハ府長ハ直ニ修正ヲ加ヘ其由ヲ管内ニ告示ス可シ

第二十一條 前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ得

第二十二條 申立人又ハ當人ニ於テ府參事會ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ二十一日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但出訴ノ爲メ判定ノ執行ヲ停止セサルモノトス

第二十三條 選舉人名簿ハ九月一日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ据置クモノトス

每年確定ノ選舉人名簿ハ次回ノ名簿確定スルマテ總テノ選舉ニ之ヲ使用スルモノトス

第二十四條 選舉ヲ執行スルトキハ府長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉ス可キ議員ノ數ヲ各級各區ニ分チ選舉前勘クトモ七日ヲ限り之ヲ公告ス可シ

第二十五條 選舉掛ハ名譽職トシ府長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ府參事會員中ヨリ其掛長一名ヲ選任ス

掛長ハ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス可シ但選舉區ヲ設クルトキハ每區各別ニ選舉掛ヲ設ケ區長若クハ府長ニ於テ選任スヘキ代理者ヲ以テ其掛長トナスコトヲ得

第二十六條 選舉掛及選舉人ノ外何人タリ共選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但會場臨視ノ職權アル官吏並選舉掛長ノ依頼ニ應シテ臨場シタル警察官吏ハ此限ニ非ス

第二十七條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出ス可シ但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及ヒ住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選

舉人名簿ニ照ラシテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十八條 投票ニ記載ノ人員其選舉スヘキ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無効トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順序ニ棄却ス可シ

左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ

投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選舉掛長ニ於テ選舉掛ノ意見ヲ聽キ之ヲ決定スヘシ

第二十九條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ托シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス

第十一條第二項及第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其代人ハ內國人ニシテ獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ證トナスヘシ

第三十條 議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同シキモノハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ前任者ノ補闕ト爲シ其數相同シキトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第三十一條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉顛末ヲ記録シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ選舉掛長之ニ署名ス可シ

投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ヲ結了スル迄之ヲ保存ヘシ

第三十二條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ通知ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ當選ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ之ヲ府長ニ申立ツ可シ

一人ニシテ數級又ハ數區ノ選舉ニ當リタルトキハ當選ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ於テ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ申立ツ可シ其期間內ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者ト看做シ第七條ニ依リ處分スヘシ

第三十三條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以內ニ之ヲ府長ニ申立ルコトヲ得

選舉ノ効力ニ關スル訴願ハ府參事會之ヲ裁決ス
府長ニ於テ選舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ申立ノ有無ニ拘ラス府參事會ノ意見ヲ聽キ處分ヲ行フコトヲ得

全選舉ヲ取消スハ其選舉ノ重要ナル選舉規定ニ違ヒ選舉ノ結果ニ異同ヲ生シタル虞アリト認ムル場合ニ限ル但其結果ニ異同ヲ生スルモ一部分ニ係ルモノハ其異同ヲ生シタル部分ノミヲ取消スコトヲ得

本條裁決若クハ處分ニ不服ナル選舉人ハ其裁決書若クハ處分書ノ交付若クハ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス但裁決若クハ判決確定スルニ非サレハ更ニ選舉ヲ行フコトヲ得ス

第三十四條 當選人其當選ノ際資格ノ要件ヲ有セザリシコトヲ發見シ又ハ當選後資格ノ要件ヲ失フコトキハ其人ノ當選ハ効力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ府會之ヲ議決ス

府會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ヲ府長ニ通知シ府長ハ第十七條ニ依リ補闕選舉ヲ行フヘシ

第二款 職務權限及處務規程

第三十五條 府會ハ法律命令ニ依リ府ノ公共事務ト定メタルモノニ付キ議決スルモノトス

其他府會ハ法律命令ニ依リ特ニ其職權ニ屬セラレタルモノニ非レハ之ヲ議スルコトヲ得ス

如何ナル場合ト雖府會ハ自ラ其議決ヲ執行スルコトヲ得ス

第三十六條 府會ノ議決ニ對シテハ府參事會ハ異議ヲ申立ルコトヲ得
府參事會ニ於テ異議ヲ申立タルトキハ府長ハ其理由ヲ示シテ府會ノ再議ニ附スヘシ

府會ト府參事會トノ間ニ意見ノ合一ヲ來タスコト能ハサルトキハ府長ノ決スル所ニ依ル但府長ハ府會若クハ府參事會ノ意見ニ付キ其一ヲ取ルモノトス

府長ニ於テ第百三條ニ依リ處分スルコトヲ要スト認ムル場合ハ本條ニ依ルノ限ニアラス

第三十七條 府會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ府參事會ニ委任スルコトヲ得
第三十八條 府會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

府會ハ府ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付府長又ハ府長ヲ經テ內務大臣ニ建議スルコトヲ得

第三十九條 府會議員ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可カラサルモノトス

第四十條 府會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長及ヒ副議長各一名ヲ互選スヘシ其任期ハ三年トス但任期滿限ノ後ト雖後任者就職ノ日マテ在職スルモノトス

府制施行後ノ初會ニ於テハ議長副議長ヲ互選スルマテ內務大臣府廳ノ高等官ヲシテ議長ノ職務ヲ行ハシム

第四十一條 府長若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル府ノ官吏若クハ吏員ハ府會ノ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ何時ニテモ之ヲ許ス可シ

第四十二條 府會ハ毎年一回秋季ニ於テ通常會ヲ開ク通常會ノ會期ハ三十日以内トス其他必要アルトキハ其事件ニ限リ七日以内ヲ會期トシ臨時會ヲ開クコトヲ得

府會ハ府長之ヲ招集ス其招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示ス可シ但急施ヲ要スル場合ハ此限ニアラス

府會ハ府長之ヲ開閉ス

第四十三條 府會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非レハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十四條 府會ノ議決ハ過半数ニ依リ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十五條 議員ハ自己及其父母兄弟妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ府會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

本條第一項ニ依リ議員ノ定數ヲ得ルコト能ハサルニ至リタルトキハ府參事會代テ議決スヘシ但府會府參事會共ニ本項ニ該當スルトキハ府長ニ於テ專決處分スヘシ

第四十六條 府會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス

一 府長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員五名以上ノ發議ニ由リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

本條ニ於ケル議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ用キスシテ其可否ヲ決ス可シ

第四十七條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及ヒ選舉ノ事ヲ總理シ開會閉會並延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持スヘシ

議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理シ議長副議長共ニ故障アルトキハ府

會ニ於テ臨時議長ヲ互選スヘシ

第四十八條 議員ハ會議中ニ無禮ノ語ヲ用キ若クハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第四十九條 會議中此法律若クハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ノ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシム可シ若抗拒ニ涉ル者アルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ退去セシムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第五十條 同一會期中ニ於テ議場ノ秩序ヲ紊ルコト二回以上ニ及フ議員アルトキハ議長又ハ議員ノ發議ニ依リ府會ノ議決ヲ以テ七日以内其出席ヲ停止スルコトヲ得

第五十一條 會議ノ傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ退場セシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退出セシムルコトヲ得

議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議事ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ府長若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏若クハ吏員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第五十二條 第四十九條第五十一條ニ依リ議長ノ命ニ應セシムル爲メ府長ハ每會期警察吏ニ議場掛事務ヲ命ス可シ

第五十三條 府會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム

書記ハ議長之ヲ選任ス

第五十四條 府會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末並ニ出席議員ノ氏名ヲ記錄セシム可シ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名ス可シ

府會ノ議決ハ總テ府會議長ヨリ之ヲ府參事會ニ通知スヘシ

第五十五條 府會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府長ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得

第三章 府ノ行政

第五十六條 府廳ノ官制並ニ府長以下官吏ノ職務權限及ヒ其代理ノ規定等ハ此法律ヲ以テ定メタルモノヲ除クノ外勅令ノ定ムル所ニ依ル

府長ハ府ノ行政及警署消防監獄ノ事ヲ指揮監督ス

左ノ事項ハ府長ノ職務トス

一 法律命令及ヒ法律命令ニ基ケル上司ノ指令ヲ執行スルコト

二 府會及府參事會ノ議案ヲ發シ其議決ヲ執行スルコト

三 府ノ營造物ヲ管理スルコト及ヒ府吏員ヲ任免シ之ヲ指揮監督スルコト

四 府ノ收入支出ヲ管理シ其出納ヲ監督スルコト

五 府ノ財産ヲ管理シ財産ニ關スル府ノ權利ヲ保護スル事

六 府ノ記録ヲ保存スル事

七 外部ニ對シテ府ヲ代表シ府ノ名義ヲ以テ諸官衙及ヒ私人ト往復シ公文ニ署名スル事

府ノ書類ニシテ府ヲシテ民法上ノ義務ヲ負ハシムルモノナルトキハ府長ノ外ニ尙ホ府參事會員一名之ニ記名スヘシ

其事項ニシテ監督官廳ノ許可ヲ要スルモノニ係ルトキハ其認可ヲ證明スヘキ寫ヲ添附スヘシ

八 府稅ヲ徵收スルコト

九 府會ノ議決ヲ經テ府條例ヲ發スルコト

第五十七條 府ニ府參事會ヲ置キ左ノ人員ヲ以テ之ヲ組織ス

府長

一名

高等官

二名

名譽職參事會員

八名

但區域ノ廣狹人口ノ多寡等ニ依リ內務大臣ハ特ニ省令ヲ以テ名譽職參事會員ノ定數ヲ増減スルコトヲ得

第五十八條 府參事會員タル高等官ハ府廳ニ奉職ノ高等官中ヨリ內務大臣之ヲ命ス

第五十九條 名譽職參事會員ハ府會ニ於テ其府ノ公民ニシテ府會議員ノ被選舉權ヲ有スル者ノ内ヨリ選任ス

府會ニ於テ名譽職參事會員ノ選舉ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有効投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取り之ニ就テ更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ルモノナキトキハ右兩人ノ内投票ノ最多者ヲ以テ當選者トシ投票同數ナルトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十七條第一項第二十八條ヲ適用ス

第六十條 名譽職參事會員ノ任期ハ六年トス但任期滿限ノ後再選セララルコトヲ得

名譽職參事會員ハ任期滿限ノ後ト雖後任者就職ノ日マテ在職スルモノトス

左記ノ者ハ府參事會員トナルコトヲ得ス

一 府會議員府ノ有給吏員及ヒ府ノ出納ヲ司ル官吏

二 神官僧侶及ヒ諸宗ノ教師

三 判事檢事及ヒ警察官吏

四 小學校教員

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ府參事會員トナルコトヲ得ス又同時ニ府參事會員府會議員トナルコトヲ得ス

前項ニ該當スルモノ二人以上同時ニ府參事會員若クハ府參事會員ト府會議員トニ選レタルトキハ年齡少キモノ、當選ヲ以テ無効トス但シ年齡相同シキトキハ府長抽籤ヲ以テ就職者ヲ定ム

第六十一條 名譽職參事會員ニ關員ヲ生シタルトキハ二ヶ月以内ニ臨時其選舉ヲ行フヘシ

補闕參事會員ハ退職シタル參事會員ノ任期間在職スルモノトス

第六十二條 府參事會ハ府長ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ上席高等官會員之ヲ代理ス

第六十三條 府參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 府會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 府會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府長ニ於テ府會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキ若クハ府會成立セス若クハ召集ニ應セサルトキハ府會ニ代テ議決ヲ爲ス事

三 府會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ府有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事

四 府ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事

五 府長及ヒ其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フル事

六 法律命令及ヒ決議ニ從ヒ府稅ヲ其義務者ニ分賦スル事

七 府長ヨリ府會ニ發スヘキ議案ニ付キ下調査ヲ爲ス事及ヒ總テ府會ノ議決ヲ執行スル爲メニ必要ナル議決ヲ爲ス事

府會ニ提出スヘキ議案ニ關シ府長ト府參事會トノ間ニ意見合ハサルトキハ府長ハ其議案ニ府參事會ノ意見ヲ添付シテ之ヲ府會ニ提出スヘシ

八 府ノ出納ヲ監督スル事

其他法律命令若クハ法律命令ニ基ケル上司ノ指令ニ依リ府參事會ノ權限ニ屬セシムル事務ヲ處理ス

第六十四條 府參事會ハ府長之ヲ召集ス

會員半數以上ノ請求アルトキハ府長ハ府參事會ヲ召集スヘシ

第六十五條 府參事會ノ會議ハ傍聴ヲ許サス

第六十六條 府參事會ハ議長又ハ高等官會員一名及名譽職會員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但第六十三條第一ノ議決ヲ爲スコトキハ高等官會員ハ其議決ニ加ハサルモノトス

府參事會ノ議決ハ出席參事會員ノ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及ヒ名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第六十七條 府參事會會員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付府參事會ノ議事ニ參與シ及ヒ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項規定ノ爲メ出席ノ參事會會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府長ハ府會議員ニシテ該事件ニ對シ本條第一項ノ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會會員ノ不足ヲ補充シテ定數ニ滿タシムヘシ

第六十八條 府會ニ於テ名譽職參事會會員ヲ選舉セス又ハ參事會成立セス又ハ招集ニ應セス若クハ同一事件ニ付キ招集ニ回ニ及フモ其出席員半數ニ達セサルトキハ參事會成立シ又ハ招集ニ應スル迄府長ハ府參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

事急施ヲ要シ府參事會ヲ招集スルノ暇ナシト認メタルトキハ府長ハ府參事會ノ事務ヲ專決處分シ次會ノ會議ニ於テ其處分ヲ報告スヘシ

第六十九條 府長ハ府會ノ議決ニ依リ府ノ費用ヲ以テ府有財産又ハ營造物ノ管理若クハ土木工事ニ必要ナル有給ノ吏員ヲ置クコトヲ得但府吏員ハ府長ニ於テ之ヲ任免及指揮監督ス

府吏員ノ給料手當退隱料等ハ府條例ヲ以テ之ヲ定ム其身元保證金ヲ要スルトキ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第七十條 府長ハ府會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ府事務ノ一部ヲ調査セシメ又ハ府有財産及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得其委員ハ府長之ヲ任免及指揮監督ス

其組織及任期ハ府會ノ議決スル所ニ依ル

委員ハ名譽職トス

第七十一條 府長ハ府ノ公共事務ヲ處理スル爲メ府參事會ノ意見ヲ聽キ之ヲ數區ニ分チ每區ニ有給ノ區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得

府長ハ前項ノ吏員ヲ任免及指揮監督ス

東京京都大阪ノ三府ニ於テハ將來勅令ヲ以テ之ヲ變更スルマデ從來ノ區ニ區長各一名及書記ヲ置キ有給吏員トナシ府長之ヲ任免及指揮監督ス又區長代理者ヲ置カス區長事故アルトキハ上席書記之ヲ代理スヘシ但書記

ノ人員ハ府會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第七十二條 區長及其代理者ハ府長ノ機關トナリ其指揮監督ヲ受ケテ區内ニ關スル府ノ行政事務ヲ補助執行スルモノトス

區長ヲ置キタル府ニ於テハ府長ハ區長ヲシテ其區内ニ關スル國ノ行政事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第七十三條 名譽職委員有給吏員區長及其代理者ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メ必要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

前項ノ實費辨償額及報酬額ハ府條例ヲ以テ豫メ之ヲ定ム可シ

第七十四條 區長其代理者其他府ノ有給吏員及使丁ノ給料額ハ府條例ヲ以テ豫メ之ヲ定ムヘシ

第七十五條 府吏員及委員ニシテ任期アルモノハ任期滿限ノ後再ヒ選任セラルハコトヲ得府吏員及委員ハ任期アルモノト雖府長ニ於テ隨時之ヲ解職スルコトヲ得

第四章 府ノ財政

第七十六條 舊來ノ慣行ニ依リ府住民ノ一部ニ於テ特ニ其府有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スルモノアルトキハ府會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス

第七十七條 府住民中特ニ府有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ府條例ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收シテ之ヲ許可スルコトヲ得

民法上ノ使用權ハ本條ニ依ルノ限ニ在ラス

第七十八條 前條ノ使用權ヲ有スル者ハ使用ノ高ニ準シテ其土地物件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔スヘキモノトス

第七十九條 府會ハ府ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ第七十七條ノ使用權ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ得

民法上ノ使用權ハ本條ニ依ルノ限ニ在ラス

第八十條 府有財産ノ賣却賃貸又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可シ但シ臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ府會ノ認許ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第八十一條 府有財産及營造物管理ノ費用、府會、府參事會、及委員ノ費用、府吏員ノ給料退隱料其他ノ諸給與及總テ府ノ行政ニ要スル費用ニシテ從來法律命令若クハ慣例ニ依リ此法律施行ノ區域内ニ於ケル府縣郡市町村ノ負擔ニ屬シタルモノ並將來法律勅令ニ依リ府ノ負擔ト定ムル費用ハ府ニ於テ之ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第八十二條 府ノ支出ハ府稅及其他府ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第八十三條 府長ハ府條例ヲ以テ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ爲メニスル府ノ事業ニ付使用料又ハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第八十四條 府稅ノ賦課徵收ノ手續納稅義務ノ發生消滅免除免稅並徵收延期ニ關スル諸規定ハ此法律ニ牴觸スルモノ及將來ノ法律若クハ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除クノ外從來府縣稅ニ關スル規定ニ依ル但府ニ於テ發スル府稅徵收細則ニ關スル條例ニハ十圓以下ノ過怠金ヲ附スルコトヲ得

第八十五條 府ハ國稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

附加稅ハ直接ノ國稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ府ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トス

第八十六條 府ハ直接又ハ間接ノ特別稅ヲ賦課徵收スルコトヲ得
特別稅ハ別ニ府限リ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵收スルモノトス

第八十七條 納稅者ノ府外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業ヨリ生スル收入ニ對シテハ府稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第八十八條 所得稅法第三條ニ掲グル所得ニハ直接府稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第八十九條 府内ノ一區ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其區内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業（店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク）ヲ爲ス者ニ對シテノミ其修築及保存ノ費用ヲ賦課スヘシ但此場合ニ於テ其一區ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツヘシ

第九十條 府内ノ一區ニシテ其住民ノ共有ニ係ル財產若クハ營造物アリテ其區限リ特ニ其費用ヲ負擔スルトキハ府長ハ府會ノ決議ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ得テ府條例ヲ以テ財產及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會ヲ設クルコトヲ得區會ノ組織、會議ノ手續及其議員ノ選舉被選舉權其服務ノ義務並區ニ於テ其財產若クハ營造物ノ爲メニ區稅ヲ賦課徵收スルノ必要アルトキハ其稅目及ヒ定率等ハ本條末項ノ勅令ノ制定アルマデハ總テ府條例ヲ以テ豫メ規定シ勅裁ヲ受クヘシ

區ニ關スル制度ハ將來勅令ヲ以テ之ヲ制定スルコトヲ得

第九十一條 前條ニ記載スル事務ハ前條末項ノ勅令制定セラル、マデノ間府ノ行政ニ關スル規定ニ從ヒ府長之ヲ管理スヘシ但區ノ會計事務ハ之ヲ分別シテ管理スヘシ

第九十二條 府ニ於テ徵收スル使用料、手數料府稅共有物使用料及加入金其他府ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ府長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スヘシ

納稅者中無資力ナル者アルトキハ府長ハ府參事會ノ意見ヲ聞キ會計年度内ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ府會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免及先取特權等ニ付テハ府縣稅ニ關スル規則ヲ適用ス

府ニ屬スル民法上ノ收入ハ本條ニ依ルノ限ニ非ス

第九十三條 府及區ノ公ノ設立物ヲ使用スルノ權利義務府稅區稅ノ賦課徵收ニ關スル訴願ハ府參事會ニ於テ之ヲ裁決ス

但シ府稅區稅ノ賦課徵收ニ關スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三ヶ月以内ニ之ヲ提起スヘシ

府參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ其裁決書ノ交付若クハ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願訴訟ハ行政處分ノ執行ヲ停止セス

第九十四條 府ハ其舊債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災事變ノ爲メ已ムヲ得サル支出又ハ府ノ永久ノ利益ト成ルヘキ支出ヲ要スルニ當リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ府ノ住民ニ於テ其負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限リ府會ノ議決ヲ以テ府債ヲ起スコトヲ得

府債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併テ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ府條例ヲ以テ定ムヘシ

府債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了ス可シ

歲入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス但本項ノ借入金ハ府參事會ノ議決ヲ經ヘシ

第九十五條 府長ハ毎年其翌年度ニ係ル歲入出豫算ヲ調製シ豫期シ得ヘキ收入支出ハ總テ其中ニ編入ス可シ但府ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

內務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第九十六條 豫算ハ毎年府會ノ議決ヲ取リ之ヲ內務大臣ニ報告シ並ニ府ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示ス可シ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同シ

府ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ府會ノ議決ヲ以テ其年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

繼續費ハ繰越支出スルコトヲ得

豫算ヲ府會ニ提出スルトキハ府長ハ併セテ其府有財産表ヲ提出ス可シ

第九十七條 歲入出豫算中ニ豫備費ヲ置キ府長ハ府參事會ノ議決ヲ經テ已ムヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但府會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第九十八條 府ノ收支命令ハ府長之ヲ發ス可シ

第九十九條 府ノ會計事務ヲ管理スル官吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサルモノナルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第一百條 決算ハ會計事務ヲ管理スル官吏ニ於テ會計年度經過後三ヶ月以内ニ之ヲ府長ニ提出シ府長ハ府參事會ヲシテ之ヲ檢査セシメ次回ノ通常府會ノ認定ニ付ス可シ決算報告書並ニ之ニ關スル府會ノ議決ハ府長ヨリ之ヲ內務大臣ニ報告シ決算ハ府ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示ス可シ

第五章 府行政ノ監督

第一百一條 府ノ行政ハ內務大臣之ヲ監督ス

第一百二條 內務大臣ハ府行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視ス可シ內務大臣ハ之ヲ爲メ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並ニ實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第一百三條 府會若クハ府參事會ノ議決公益ヲ害スト認ムルトキハ府長ハ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ直ニ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

府會若クハ府參事會ノ議決其權限ヲ超エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府長ハ其議決ヲ取消スヘシ此場合ニ於テ府長ノ處分ニ不服アルトキハ其處分書ノ交付若クハ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一百四條 府會又ハ府參事會ニ於テ法律命令若クハ慣行ニ依テ府ノ負擔ニ屬スル行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖之レカ爲メ必要ノ給需ヲ缺クトキハ府長ハ內務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但內務大臣ハ原案金額ヲ相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第一百五條 府會招集ニ應セス又ハ成立セス若クハ成立スル能ハサルトキハ府長ハ內務大臣ノ指揮ヲ請ヒ專決處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告ス可シ

第一百六條 府會又ハ府參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決セス又ハ府會

ニ於テ招集前正當ノ手續ヲ以テ告示セラレタル議案ヲ第四十二條ニ定メタル期限内ニ議了セサル場合ニ於テ其事緊急ヲ要スルトキハ府長ハ內務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但其議決セス又ハ議了セサル議案歲入出豫算ニ係リ內務大臣ニ於テ原案金額ヲ相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第一百七條 內務大臣ハ府ノ歲入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除シ其府ノ實力ニ比シ不急ノ支出ト認ムル費目アルトキハ相當スル收入額ヲ減殺スルコトヲ得此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺スヘシ

第一百八條 府會ノ解散ハ勅令ヲ以テス此場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ改選スヘシ

前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス府會解散ノ後改選了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ府長ハ專決處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第一百九條 左ノ事件ニ關スル府會ノ決議ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 府有不動產ノ賣却交換讓與並質入書入ノ事

二 學藝上又ハ歷史上貴重ナル動產ヲ賣却讓與交換質入書入シ若クハ之ニ大ナル變更ヲ加フル事

三 第九十六條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期限内ニ議決ヲ變更スル事

第一百十條 左ノ事件ニ關スル府會ノ議決ハ內務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ府債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ若クハ償還ノ方法ヲ變更スル事

二 地租七分ノ三、二五ヲ超過スル府稅ヲ土地ニ賦課シ及直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

三 間接國稅ニ附加稅ヲ課賦スル事

四 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シテ支出金額ヲ定ムル事

五 直接又ハ間接ノ特別稅ヲ賦課スル事

第一百十一條 府條例ハ勅裁ヲ經ヘシ

府條例ハ法律命令ニ牴觸スルコトヲ得ス

第一百十二條 名譽職參事會員及區長委員及府吏員ノ懲戒處分ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 附則

第百十三條 此法律施行ノ爲メニ必要ナル府縣ノ廢置分合其境界ノ變更及財產處分等ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第百十四條 此法律第四條ノ場合ニ於テハ勅令ノ規定スル所ニ從ヒ府ノ營造物ヲ以テ周圍ノ縣ノ用ニ併セ供スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ其縣ヲシテ府ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第百十五條 將來ニ於テ法律命令ヲ以テ變更スルニ至ルマデノ間ハ國ノ行政事務ニ關シ從來法律命令ニ依リ此法律ヲ施行スヘキ市街地ニ係ル府縣知事郡長市町村長ノ職務ニ屬セシメタル事務ハ府長ニ於テ之ヲ施行シ其府縣會郡會市町村會ニ屬セシメタルモノハ府會ニ屬シ府縣參事會郡參事會及市參事會ノ職務ニ屬セシメタルモノハ府參事會ニ於テ之ヲ行フ但此法律ノ規定ニ牴觸スルモノハ此限ニ在ラス

第百十六條 此法律ニ於ル直接稅又ハ間接稅ノ類別ハ內務大藏兩大臣ニ於テ之ヲ定ム

第百十七條 此法律ヲ施行スルニ當リ必要ナル處分ハ此法律ニ規定シタルモノヲ除クノ外內務大臣ノ命スル所ニ依ル但初期ノ議員ヲ選舉スルニ方リ府參事會及府會ノ職務ハ內務大臣ノ指令スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第百十八條 內務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令ヲ發ス可シ

第百十九條 此法律ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス

第百二十條 此法律ニ牴觸スル從來ノ法律命令ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

〔男爵渡邊清君演壇ニ登ル〕

○男爵渡邊清君 本案ハ第五期即チ前回ニ於テ提出ヲ致シタル其儘ノモノデゴザイマス、衆議院解散ノタメニ不幸ニシテ特別委員ニ付シタ儘ニナツタノデゴザイマス、ソコデ其此案ヲ提出シタル所以ハ前會ニ於テ已ニ陳述モ致シテゴザイマス、其上ニ又此卷末ニ其理由ノ概略ハ擧ゲテアリマスデ是レデ大概ノ要領ハ分ルコトデアリマス、デ元來此市町村ハ關係事情相異ナル所ガアリマスルカラ其制度モ異ニナッテ居リマス譯、夫レト同ジコトデ僅カ人口數萬ノ市ト數十百萬ノ市府トハ是レ亦關係事情ノ相異ナル所ノモノガアリマスルガ故ニ、現行特別市制ト云フモノモ有ル譯デ、然ル處此特別市制チ已ムヲ得ズシテ施カレアルト云フモノハ眞ニ是レ姑息ノ法ト云フニ過ギ

又譯デア、夫レ故ニマア現行ノ府縣制ノ中ノ府ノ府制ノコト、又市制特別市制等ノコトヲ一括致シテ、又聊カ又之ニ取捨ヲ加ヘマシタル即チ此案デゴザイマス、デ尙ホ之ニ附イテ御質問ノ儀デモゴザイマスルナラバ本員同様發議者モアルコトデゴザイマス、提出者渡邊男爵ニ御尋ネテ致シマス、○男爵伊達宗敦君 質問ガアリマス、提出者渡邊男爵ニ御尋ネテ致シマスガ、此案ハ今承レバ前期ニ出サレタ其儘ソツクリノモノデチットモ直シタ所ハナイト云フ、サウスレバ之ヲ御出シニナルニハ左程手間モ入りサウモナイノニ、斯ク議會切迫シテ最早二日アルヤナイカト云フ間際ニナッテ斯様ナ紙數ノ多イ案ヲ御提出ニナルノハドウ云フ譯デアリマス、少シチカシイ様デゴザイマスカラチヨット御尋子ヲ致シマス、○男爵渡邊清君 夫レハアナタノ御考ヘ丈ケ、別ニ答辯ニ及バヌト思ヒマス、

○男爵伊達宗敦君 夫レデ能ク分リマシタ、サウスルト是レハ眞シ本院ハ可決シテモ衆議院ニ廻ッテ行カナケレバナリマセヌ、元ト衆議院カラ特別市制廢止法律案ト云フモノガ出テ居リマスルノデアリマスルカラ、是レガ廻ッテ行ッタ所ガ、眞シ向フデ之ヲ議スルニシテモ大變長イ時日ヲ費スデアラウ、然ルニ此間際ニ提出ニナッタト云フモノハ私ノ考ヘ次第ト云フコトデアルガ取りモ直サズ本員ノ考ヘル所デハ詰マリ特別市制ヲ廢サウト云フモノヲ妨ゲムタメニ出シタモノデアルト云フコトヲ茲ニ明言シテ置キマス、

○平田東助君 唯今提出者ノ一人タル渡邊男爵カラ述ベラレマシテゴザイマスルカラ本員ハ再ビ述ベル必要ハゴザイマセヌガ、唯今ノ明言ニ至ッテハ少シク辯ジテ置カナケレバナラヌト思ヒマス、固ヨリ是レハ特別市制ト關係ヲ持ッテ居ルト云フコトハ固ヨリデゴザイマス、即チ提出者カラ述ベラレタ如ク特別市制ハ甚ダ完備シタモノデハナイノデス、姑息ノ法律デア、故ニ之ヲ完備シタ法律ヲ以テ此三府ノ如キ特別市ノ性質及現狀ヲ有シタ所ニ施行シナケレバナラヌト云フ理由ヲ以テ此ノ府制法案ヲ提出シタルデア、斯ノ如キ大ナル法案ヲ提出スルトモ斯ノ如キ三週間バカリノ議會ニ於テ到底十分ニ議シ得ベキコトデハナイト云フコトハ本員モ固ヨリ明ニ承知シテ居リマス、併シ如何セム衆議院ニ於テ特別市制ノ廢棄案ガ出マシテ本院ニ廻ッタ以上ハ此特別市制ニ對スル所ノ完備ナル……特別市制ヲ廢スルト同時ニ此完備ナル法律ヲ施行スルト云フ精神ヲ以テ提出シタル譯デゴザイマス、之ヲ特別委員ガ極リマシテ之ヲ調査ノ上衆議院ト交渉セラル、トモ、又ハ之ニ依ッテ繼續委員ヲ置カレマスルトモ、其邊ノコトハ別段ノ問題ト致シマシテ、兎ニ角斯ノ如キ特別市制ノ如キ不完全ナルモノハ固ヨリ提出者ノ取ル所デハナイ、併ナガラ直ニ之ヲ廢スルト云フノハ三府ノタメニ大ニ講究ヲ要スルト云フコ

トハ信ジテ疑ハヌノデゴザイマス、是レガ唯今渡邊男爵ノ述ベテラタ所ノ理由デアラウト思ヒマス、唯今ノ御明言ニ對シテ一言述ベテ置キマス、

○安場保和君 唯今朗讀ナリマシタ渡邊子爵、男爵ヨリノ提出ノ議案ハ段々伊達男爵等ニ於キマシテモ御不審モアリマシテ、即チ此案ハ提出者ノ一人タル平田君ヨリ述ベラル、通リ特別市制廢止案ニ於テ大ニ關連ヲ持ツ緊急ナル事件デアリマスレバ、最早短期ノ議會モ日已ニ餘スコト一日ト云フ場合デアリマスレバ、十分ニ此會期中ニ講究ヲ盡シテ衆議院ニ廻ハスト云フ間合ハ有ルカ無イカ分リマセメケレドモ、併シ唯本院ニ特別市制廢止案ガ送付ニナッテ、夫レデ特別委員ノ調査中ニ在ッテ見マスレバ、夫レト同様ニ更ニ此案ニ附イテモ付託委員ヲ選定ニナリマシテ、ドウゾ速ニ精神ヲ盡シテ調査アラムコトヲ希望致シマス、其委員ハ即チ議長席ニ於テ選定アラムコトヲ併セテ希望致シマス、

○安藤則命君 繼續委員ヲ設ルコトニハ同意致シマス、
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 繼續委員ヲ置クト云フ發議デナイノデゴザイマス、

○安場保和君 特別委員ニ付スルト云フ積リデゴザイマス、

○安藤則命君 宜シウゴザイマス、

○男爵本田親雄君 此案ハ條數モ長ウアリマスカラ今安場君ノ述ベラレタ通りニ此處デ決スルト云フコトニハ往キマセメカラ特別委員ニ付セラル、コトヲ贊成致シマス、

○子爵堤功長君 本員モ安場君ニ贊成、

○森山茂君 安場君ニ贊成、

○折田平内君 安場君ニ贊成、

○子爵由利公正君 安場君ニ贊成、

○藤村紫朗君 贊成、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 安場君ノ御説ハ更ニ特別委員ヲ置クト云フ御説ノ様デアリマシタガ尙ホ安場君ニ尋子マスガ更ニ特別委員ヲ置クト云フ御説デアリマスカ、

○安場保和君 左様デゴザイマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 宜シウゴザイマス、サウシテ選定ノコトハ……

○安場保和君 申シマシタ積リデアリマスガ……

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 宜シウゴザイマス、安場君ノ動議即チ此府制法案ハ特別委員ヲ設ケ委員ノ選定ハ議長ニ託スルト云フ此動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数ト認メマス、

○西村亮吉君 私ハ此議案ヲ委員ニ付託シタ所デ僅カ二日ノ間ニ調査ハ出來難イト思ヒマスカラ此議院法ノ第二十五條ニ依ッテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルト云フコトニシタイ、ドウゾ諸君ニ贊成ヲ願ヒタイ、

○安藤則命君 繼續委員ヲ設クルト云フコトニハ同意致シマスガ、此案ニ附キマシテハ私ハ前々ヨリノチヨット其理由ヲ述ベタイト思ヒマス、明治二十二年施行スル時ハ私ハ熱心ニ贊成シタ一人デゴザイマシタガ、然ルニ第一回ニ於テ蜂須賀侯爵ガ東京府知事タル時ニ特別市制ヲ全廢スベキ上申書ヲ御差出シニナリマシタ、夫レヲ熟考スルニ實地上ノ取扱上ハ勿論、勞、道理ニ基キタル至當ナル御高論ト確信シマシテ即チ翻ッテ感心シマシタガ今日ニ至ルモ尙ホ熱心ニ贊成、廢案ヲ贊成致シマス儀デアリマスガ、然ルニ前回ニ於キマシテ政府委員ノ演説ハ議院制度ニ附イテ初メ政府ノ方針ヲ變ゼラレテ道理ニ背キタル……〔聽取シ難シ〕其三府ニ特別市制ヲ布クコトハ第一最初ノ精神ニ悖ル演説デ甚ダ不當千萬ト思ヒマシテ斯ク理由ナク益、廢スベシト決心シテ居リマシタ、然ルニ此府制法案ヲ唯今一覽スルニ誠ニ綿密ナル案デアリマス、併シ之ヲ實行スルニハモウ二日ヨリ外アリマセメ、故ニ此繼續委員ヲ置クト云フコトハ尤モナルコトト思ヒマスデ西村君ニ贊成ヲ致シマス、

○藤村紫朗君 繼續委員提出者ノ西村君ニチヨット伺ヒマスガ、既ニ此案ニ對シテ特別委員ヲ選定スルトコトニナリマシタガ、此案ニ對シテ繼續委員ト云フコトハ或ハ特別委員ヲ以テ繼續委員トスルノデスカ、特別委員ト繼續委員トニツナガラ別々ニ置クノデアリマスガ、チヨット分リ兼子マスカラ御説明ヲ願ヒマス、

○西村亮吉君 藤村君ニ御答ヘシマス、此特別委員ニ依ッテ繼續シテ調査セシムル積リデアリマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 西村君ノ唯今ノ……

○西村亮吉君 議長ノ手元ニ於テ御選ビニナル特別委員ヲ矢張り審査繼續スル積リデアリマス、

○安場保和君 唯今西村君ノ繼續委員ノ請求ガアリマシタガ本員ハドウモ此席デ此事ヲ議スルコトハ先ヅ不用デアルト思ヒマスカラ執レ委員ニ付託ニナリマシテ其委員ノ調査ノ成績ニ依ッテ或ハサウ云フコトモアラウカト考ヘマスカラ、願ハクハドウカ此席デハ決ヲ探ラヌ様ニ希望致シマス……

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 夫レハ唯今本席ニ於テ注意シヤウト思ヒマシタ所デ、其繼續委員ノ動議ハ始メデデゴザイマシテ未ダ一回モゴザイマセヌカラ頓ト……勘考シタ所ヲ申シマスガ、唯今特別委員ト云フモノガ出來テ其

ノ特別委員ヲ是レヨリ選定スルコトヲ議長ニ託シテアリマスルカラ選定致シマス積リデアリマス、サスレバ其上デ繼續委員ノ動議が出マスレバ特別委員ヲ打消ス様ニナリマス、特別委員ヲ打消ス様ニナッテハ唯今議決致シタモノナ後ノ動議ヲ打消スコトハ出來ヌ、然ルニ動議が出マシタケレドモ是レハ決チ探ルベキモノデナイト思ヒマス、次ニ復族ノ請願會議ヲ開キマス、

○男爵伊達宗敦君 唯今ノ特別委員ニ付スル方ハ極ッタノデアリマス、決チ御探リニナリマシタカ……是レハ私ガ間違ヘタノデアリマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 唯今既ニ齎シタト思ヒマス、

〔男爵伊達宗敦君〕私ハ大間違デ私モ起立シタノデアリマシタト述ブ、

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 次ニ復族請願會議ヲ開キマス、是レハ昨日既ニ請願委員長ヨリモ報告ガアリマシテ議事ニ取掛ッタ所デ休止ニナッテ居ルノデ、即チ復族請願意見書案ガ問題トナッテ居リマス、

○男爵渡邊清君 此意見書案ニ對シテ承リタイコトガアリマスガ唯今ニテ宜シウゴザイマスカ……

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 宜シウゴザイマス、

○男爵渡邊清君 此復族ノ件ト云フコトヲ掲ゲテ其中ノ文章ヲ見ルト復族ノコトデナクシテ舊祿制ニ照シ幾分カ公債證書ノ下付ヲ請フト云フ様ニ書イデアリマスガ夫レハドウ云フデアリマセウカ、又表題ニモ復族トアル、夫レチヨット委員長ニ承リタイ、

○子爵仙石政固君 是レハ委員長ヨリ御答ヘニナルベキデアリマスルガ私ガ調査致シマシタ故ニ其要領ヲ申シマス、此請願書ニハ復族ノ請願書トアルノデアリマス、夫レカラシテ請願書ノ結文ニ至リマスルト祿ヲモ併セテ貰ヒタイト云フ斯ウ云フ請願デゴザイマス、御説ノ如ク能ク分リマセヌカラ出願者ニ承リマシタラ其通りナ譯デ、先ヅ今ハ平民デアアルガ故ニ一先ヅ族ヲ復セラレタイ、併ナガラ出來ルコトナラバ併セテ祿ヲ拜領シタイト云フ次第デアリマス、故ニ號題ト結文トハ斯ノ如クニナッテ居リマス、

○男爵渡邊清君 夫レデハ甚ダチカシイ話ニナリマスガ、既ニ復祿ノコトハ此頃、一昨日デアリマシタカ決議ニナッタ明治二十三年七月以前ハ出來ヌノデ以前ニハ及バヌノデアリマス、此題號コソ復族トアルガ復族ノコトヲ言ハズシテ復祿ノコトヲ唱ヘルノハ彼ノ議決ニナッテ居ル法律ニ對シテ此意見書ハ出セルモノデナイト思フ、ドウモ是レハ甚ダ不都合ノコトニハナルマイカト考ヘル、デドウモ是レハ御差控ガ宜シイト思ヒマス、

○子爵仙石政固君 是レハ國事犯デハナイノデアリマス、元チ申シマスル

ト明治維新ノ頃ニ彼ノ諸君ノ兼テ御承知ノ如ク上野騷亂ガゴザイマシテ、其際輪王寺ノ宮ト云フ御方ハ徳川氏ノタメニ段々御心配ガアリ、其結果トシテ御上京ニナリマシタ、夫レデ永世御隨從シテ居ッタ士族ト云フモノハ皆流離轉々シテ何處ヘ往ッタカ分ラヌ様ニナッテ其後引續キマシテ色々請願ヲスベキナレドモ右ノ如ク主人ヲ失フテ銘々何處ニ行ッタカ分ラヌト云フ様ナコトデ、政府ノ扱モ全ク度外視スルト云フ様ナ結果ニナリマシタ、夫レカラ致シテ後ニ段々明治十三年頃ニモ此請願書ニハ書イテゴザイマセヌガ實際ハ内務大藏省等ニモ屢々請願ヲ出シタコトガアルサウデゴザイマス、全ク是レハ國事犯者トハ委員會デハ見テ居ラヌノデアリマス、差支ナイト考ヘマス、

○男爵渡邊清君 モー一ツ承リタイガ、サウナレバ尙ホムヅカシイコトニナリマスガ、全體書イテアルコトガ本員等ハ甚ダ信用ガ出來マセヌ、斯ク申セバ或ハ人身ニ涉ル様ナコトニナリマスカ知レマセヌガ、現在斯ウ云フコトデハアルマイト思フ、チヨットハ見タコトモアル位デアリマスガ別シテ祿ト云フコトニナッテ來ルトムヅカシイコトニナラウト思ヒマス、是レハ制度ガアリマスカラ今更喋々スルニモ及ビマセヌ、大藏省ニチャント元ガ立テアルノデゴザイマス、旁、ドウモ本員ハ甚ダ不都合ナ意見書案ト考ヘマス、

○子爵仙石政固君 議長……

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 唯今ノハ別ニ御質問デナイ様デスガ御答ヘニナリマスカ、

○男爵小澤武雄君 本員モ少シ復族ノ件トアリマスルガ此舊輪王寺宮ノ家臣ト云フ者ハ士族ニナッタコトハアルマイト思フ、其時ニ士トカ何トカ云フ名稱ガアッタカ知レマセヌガ一體士族ト云フ名稱ニナッタノデハナイデアリマセヌカ、サウスレバ復族ト云フコトハ與ヘラレナイ様ニ考ヘマスカラ之ヲ御尋子致シマスカラ、此文章ノ中ニ一度士族ニ編入シ云々トアリマス、サウスルト再ビ士族ニ編入ニナッタト云フコトデアリマス、ドウ云フ所カラ再ビ編入シタト云フコトガアリマス、此二點ヲ伺ヒマス、

○子爵仙石政固君 是レハ元ハ矢張り士族デアッタ様子デゴザイマス、隨分履歷ヲ質シテ見ルト是レハ輪王寺宮ニ御隨從シタル者ノ子孫ト云フモノガ臣下トナッテ祿ヲ貰ッタノデ士族ト云フコトニハ間違ヒナイ、夫レデ再ビ士族ニ編入スルト云フコトハ以前士族ダカラモウ一度士族ニナリタイト云フ趣意デアリマス、

○男爵小澤武雄君 本員ノ御尋子スルノハ士族ト云フモノハ御維新後ニ出來タノデアリマスカラ其時カラ當嵌メナクテハ何ダカ分ラヌ、夫レデカラ再ビ士族ニ編入スルト云フコトニ附イテ少シ御答ヘノ所ガ違ッテ居ルト思フ、成ル程以前士ト云フモノガ士族ニナッテハ居リマシタラウガ士族ト云フモノガ

此家ニ附イタコトハアルマイト思ヒマス、夫レハ士族ト云フモノハ御維新後デアリマスカラ……

○男爵小松行正君　チヨット小澤男爵ニ申シマスガ、矢張り私モ請願委員ノ一人デゴザリマスカラチヨット御注意ヲ申上ゲタイト思ヒマス、復族ノ件トゴザリマス、然ルニ後ノ方ニ公債證書ヲ下付セラレタイト書イテゴザリマスガ、貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スベキモノト云フコトガゴザリマス、夫レデ公債證書ノ方ニハ餘リ重キキ置キマセヌ、願意ノ大體ト云フコトデアリマス、夫レカラモウ一ツハ此文面ニモゴザリマス通リ他例ニ照シ云々トアッテ資格ノアルモノデアルト云フ所カラシテ此請願書ヲ受ルト云フ意見ガ出マシタ、夫レ丈ケナ……

○子爵仙石政固君　是レハ成ル程士族ト云フ名稱ノ附イタノハ御維新後デゴザリマセウガ、明治三年ノ東京府ノ命令ニ依ッテ農商ノ籍ニ記入シテ其業ヲ營メト云フ命令ガ出テ居リマス、此命令ガナケレバ矢張り従前ノ通リ士族デ存シテ居ッタノデゴザリマス、夫レ故ニ再ビ士族ニナリタイト斯ウ云フ趣意デゴザリマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君)　本建議書案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者　多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君)　過半数ト認メマス、次ニ質屋取締條例改正ノ請願會議ヲ開キマス、是レハ昨日モ御相談ニ及ンデ於キマシタ通り一々朗讀ハ省キマスデゴザリマス、

(左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ此ニ載録ス)

意見書案

質屋取締條例改正ノ件

大阪市南區難波町新地平民武田源兵衛外二十名呈出

右ノ請願ハ明治十七年制定セラレタル現行質屋取締條例ハ徒ニ行政取締ヲ厲行スルモノニシテ今日ノ時勢ニ適セス檢束繁苛處罰過嚴ニ涉リ當業者ヲ困シメ金融ヲ阻碍スルコト尠カラズ既ニ第五議會ニ際シ政府委員ハ其ノ改正ノ大體ニ關シテハ政府モ亦異議ナキ旨ヲ明言セラレタリ夫レ質業ハ實ニ中等以下ニ位スル者ニ取リテハ須要缺クヘカラル金融機關タリ隨テ利澤ノ經濟社會ニ及ブモノ亦少カラス而シテ其ノ商業上ノ地位ニ至テモ他ノ普通商業者ニ比シテ決シテ徑庭アルヲ見ス惟其ノ取引ノ中等以下ニ在リ且ツ贓物轉入ノ虞アルヲ免レサルヨリ特ニ多少ノ檢束ヲ營業上ニ蒙ルモ己ムヲ得サル所ナレトモ其ノ處分ノ嚴酷ナルト其ノ手續ノ繁雜ナルトハ營業者ノ

得テ堪フル所ニアラサルヲ以テ之ヲ改正セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治二十七年五月　日

貴族院議長　侯爵　蜂須賀茂韶

内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

○伯爵清棲家教君　極簡單デゴザリマスカラ是レカラ申上ゲマス、此請願ハ即チ大阪市南區難波町ノ武田某ヨリノ請願デゴザリマシテ、現行ノ質屋取締條例ハ誠ニ苛酷ナモノデアルカラシテ營業上ニ非常ニ困難ヲ生ズル、又金融上ニモ大ニ害ニナルカラシテドウカ此質屋取締條例ヲ改正致サレタイト云フ請願デゴザリマス、故ニ宜シク諸君ニ於テ議決アラムコトヲ望ミマス、

○子爵酒井忠彰君　本員ハ此質屋取締條例ノコトハ最モ請願スベキ性質ノモノデアルト云フコトハ實ニ同意デアリマス、既ニ此事ヲ本員ハ昨年質屋取締條例ノコトニ附キマシテ當議會ノ議決ヲ以チマシテ政府ヘ進達ニナッテ居リマスケレドモ、實ハ此質屋取締條例ハ段々密ニ調ベテ見マスト實ニ必要ナルノミナラズ餘程有害ナ事柄ガアルト云フモノハチヨット小口デ見マスト流質ニナッタ屑ヲ警察ヘ届ケテ巡查ガ派出シテ來テ見テ其上流質ニシナケレバナラヌ、夫レデヤ此事ニ附イテ何人カ犯罪人デモ見タ例デモアルカト云ッテ段々警察署ヘモ往ッテ聽キマシタガドウモサウ云フ例ハナイ、實ハ雛形デ出セト云フコトデアルカラ出スノデ警察署モ煩雜デ仕方ナイト云フ有様デ、營業者モ縦ヒ雛形ニアッテモ商業者ノ店舗ヘドカドカヤッテ來ラレテ實ニ商業ヲ妨害スルト云フノデ是レハ官民トモニ望ンデ居リマスカラ之レヲ廢シテ至當ナコトト思ヒマス、夫レ故ニ昨年モ取調ベテ議會ヘ持出シマシタ通り速ニ政府ニ進達ニナリマシタ所ガ、ドウ云フ譯デアリマスガ政府ハ暗夜ノ晩ニ際打チナスル如ク數百ノ議決ヲシテモ何處ヲ風ガ吹クト云フノデ少シモ請願ノ効能ガナイ、實ニ本員ガ請願者ノ一人ダッタナラ遺憾デアラウト思フ、尤モ中ニハ考ヘルモノモアリマスガ道理カラ云フモ實際カラ云フモ利益上カラ云フモ何處ヲ突イテモ申分ノナイ事柄ニ振向カナイ場合ガアル、實ニ請願者ト云フモノハ遺憾ト思フ、必シモドウト詳シクハ承リマセヌケレドモ矢張り此請願モ詰マリ昨年ノ請願ト趣意ハ變ラヌト思ヒマス、私ハ此公會デ述ベテ置キマスガドウカ政府モ少シハ請願ヲ入レテ吳レル様ニシタイモノト私ハ切ニ希望致シマス、サウデナケレバ無駄ナ請願ニナッテ請願ハアッテモナクッテモ宜イ役ニ立タヌ様ニナッテ詰マリ骨折損ノ草臥儲ケデ委員モ迷惑千萬ト思フ委員デアッタラ……私ハ切ニ希望シマスノハドウカ是レハ議長モ折ガアッテ御注意ヲ願ヒタウゴザリマス、

明治二十七年五月 日

貴族院議長 侯爵 蜂須賀茂詔

内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

○三浦安君 是レハ請願ヲ入レテ此質屋取締條例ヲ改正スルコトハ本員モ至極同感デゴザリマス、質屋ニ限ッテ斯ウ嚴重ナノデ、是レハ固ヨリ改正スベキモノト考ヘマス、

○中村雅真君 本案ニ對シテハ間然スル所ガアリマセヌ、即チ賛成ヲ致シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 表決ニ付シマス、本意見書案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

〔左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ此ニ載録ス〕

意見書案

協力高ニ對スル金祿公債證書下付ノ件

鹿兒島縣川邊郡川邊村士族重信源右衛門外三千二百七十二名呈出
右ノ請願ハ舊鹿兒島藩舊祿制中賣買、協力ト唱フル二種アリ甲ハ一個人ニ屬シ乙ハ一鄉共有ニ係リ其ニ賣買ヲ許シタル正祿ナルヲ以テ明治四年公債證書條例ニ依リ縣令ヨリ其ノ祿高ヲ大藏省ニ届出テ同省之ヲ是認シ十二年ニ至リ該證書ヲ下付セラル縣廳之ヲ各士族ニ授與スルニ際シ或ハ戰亂ノ餘本人ノ蹤跡ヲ知ル能ハス或ハ證據書類ニ乏シキ等ニ由リ遂ニ下付ヲ受ケサルモノアリ其ノ殘額ハ十五年ニ至リ假ニ大藏省ニ返付セラレタリ請願人等ハ即チ舊協力高ニ對スル公債證書下付未済ニ屬スル者ナレハ爾來數回事實ヲ具シ之ヲ請求スルモ常ニ之ヲ却下セラル其ノ最初ノ指令ニハ明治九年第百二十三號布告ニ祇觸スト謂ヒ後ノ指令ニハ各自ノ正祿ニ非サレハ公債處分ヲ施スノ限ニアラスト謂フ然レトモ其ノ正祿タルコトハ前文具陳ノ如ク縣廳ノ届出ト大藏省ノ是認トニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得ヘク而シテ其ノ九年第百二十三號布告ニ祇觸云々ノ如キハ元來請願人等ノ家祿ハ全ク九年第百五十二號布告舊藩廳ニ於テ祿券賣買差許有之從來現場賣買致シタル家祿ノ向ニ限リ其高ノ多寡ニ拘ラス總テ十箇年分ノ金高ヲ公債證書ニテ一時下賜云々ニ依リ處分セラレ當時既ニ縣令ヨリ届出濟ノモノニシテ固ヨリ同年第百二十三號布告ヲ適用セラルヘキモノニ非ス殊ニ彼ノ第百二十三號布告ハ一旦確定シタル祿高ハ更ニ引直等ヲ許サ、ルノ規定ニシテ請願人等ノ家祿ノ如キハ當然下付セラルヘクシテ未タ下付セラレサルモノナレハ該布告ノ檢束内ニ非ストノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

○伯爵清輝家致君 此請願ハ即チ鹿兒島縣川邊郡川邊村士族重信某ノ請願デゴザリマスガ、協力高ハ一般ノ祿高ト同様公債證書ヲ下付セラレタイト云フ請願デ、證據書類散送ノタメニ其恩典ニ與ラヌ故ニドウカ之ニ對スル公債證書ヲ下付セラレタイト云フ請願デゴザリマス、之ニ付キマシテモ御質問ガゴザリマスレバ私ヨリ申上グマス答デゴザリマスガ、何分ニモ多イ請願デゴザリマシテ一人デ盡ク取調ベル譯ニモ參リマセヌ、委員諸君ニ於テ夫ノ御取調ベニナッタ御方モゴザリマスシ、又委員諸君ニ於キマシテモ御分リノナイ所ハ即チ協力高云々ノコトニ附キマシテハ御明瞭ナ諸君ガゴザリマセウト考ヘマスカラ御質問ニ附イテハ夫ノ御辯明アラムコトヲ願ヒマス、

男爵本田親雄君

此案ニハ本員ハ賛成ノ一人デアリマスガ、請願委員ノ御方デ能ク綿密ニ御調ベニモナリマシタラウガ、是レハ別ニ異ナッタモノデナクシテ士族ノ祿高ヲ公債證書ニナルベキモノガ滯ッテ居リマシテ夫レヲ御下ゲ下サル様ニト云フ請願デアリマス、唯夫レ丈ケノコトデゴザリマスケレドモ或ハ尙ホ此ノ協力高ト申ス名ガゴザリマシテ、ドウ云フモノノ性質デアラウト云フ御疑ヒモアルカモ知レマセヌカラ夫レ丈ケノ理由ヲ贊成スル理由トシテ諸君ノ御參考ノタメニ申シテ置キマスルガ、是レハ矢張り士族ノ祿高ト御見做シ下サレテ宜イノデアリマス、此ノ鹿兒島縣ノ祿制ニ於キマシテハ三種ノ名前ガ使ッテアリマスケレドモ要スルニ矢張り是レハ士族ノ祿高デアリマシテ、サウシテ是レハ士族ノ祿高トシテ公債ニ引換ヘル時分ニ其次第ヲ政府ニ申立テ政府即チ大藏省ハ夫レヲ是認シテ公債證書ヲ渡ス手續ニナッテ居ル中ニ四十萬石ノ中ノ協力高デアリマシテ名ノ異ルタメニ實マデ異ル様ニ思召シテハ誠ニ僅ノ行違ヒデ却ツテ不満足ヲ生ジヤウト思ヒマスカラ是レハ祿高ト見テ下サレバ夫レデ宜シイ、而シテ一旦族籍ヲ取去ラレテ復祿ヲ願フトカ祿ヲ召上ゲラレテ復祿ヲ願フカ云フ様ナコトデハ無ウシテ、政府即チ大藏省ニ於テモ下渡スベキモノデアルト云フコトニ極ッテ居ッタ、併ナカラ其證據トスル臺帳トカ名寄帳カト何トカ云フ書類ガアリマス、夫レヲ見出サヌタメニ其政府ニ届ケ殘リノアッタノガ七万石デアッタ、其公債ノ處分ガ一回ヨリ二回三四回同掛ッテ段々今日ニナッテ居ルノデ、其處分洩レデアリマシテ、明治十九年ヨリ此請願ヲ出シタル所ガ財政ノ都合デモゴザリマセウカ大藏省ハ之ヲ却下シマシテ、却下セラレテ見マスルト如何トモスルコト能ハズ、是レハドウシテ宜イカ、既ニ同ジ性質ノ同ジ祿高ノ同ジ士族ノ中デ矢張り公債證書ノ渡シニナッテ居リマス、是レハ調ベ洩ラサレタタメニ洩レタノ

ハ大キニ所以モゴザイマスガ、夫レモ遅レタメニ今日願書ヲ却下サレテ如何トモスルコトナキ困難ノ地位ニ今日ハ三千餘人ノ士族ガ困窮シテ居リマス、然レバ此上ハ如何トモスルコト能ハズ、唯貴族院へ請願ノ途ガ一條殘ッテ居ルトカ云フ有様ニ立到ッテ居リマス、前申上ゲル通り是レハ復祿ヲ願フトカ云フ様ナ無理ナコト申出スノデハ無ウシテ當リ前ノ政府ノ約束ノ濟ンダモノガ遲滞シテ居ルノデ御催促ヲ申スト云フ請願デアリマス、夫レガ政府ニ於テ却下セラレタカラ已ムコトヲ得ズ請願シタノデ、是レハ規則ノ範圍内ニ於テ賜ハルベキ筋ノモノデアアルノデ、其次第ハ今日マデ下渡サレズニアツタ次第ハ略、本員モ存ジテ居リマスルガ、之ニ附イテ本員ハ少シモ關係ノナイノデゴザイマスガ、如何セム此三千餘人ノ士族ト云フ者ハ何トモ進退谷ッタ區域ニ陷ッテ居リマスカラ、宜シク其次第ヲ諸君モ御洞察下サレテ御贊成アラムコトヲ希望シマス、併セテ今日マデニ滞ッタ理由ヲ申シマシタガ、尙ホ委員諸君ノ御調べモアリマセウガ、若シ御不審ノコトガゴザイマスレバ本員ガ存ジテ居ル丈々ハ此處デ申ス積リデアリマス、宜シク御洞察ヲ願ヒマス、

○子爵大迫貞清君 本田君ヲ贊成シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本意見書案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、次ニ沖繩縣宮古島島費輕減及島政改革ノ請願、會議ヲ開キマス、

〔本意見書案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメニ玆ニ載録ス〕

意見書案

沖繩縣宮古島々費輕減及島政改革ノ件

右ノ請願ハ沖繩縣下宮古島人民ハ從來人頭稅ヲ賦課セラレ今日ニ至ルモ現穀及端布類ヲ以テ之ヲ納メ其ノ負擔額一人ニ付年々金二圓以上ニ達セリ本島ハ土質瘠薄ニシテ收穫固ヨリ寡ク島民其負擔ニ堪ヘス殊ニ該稅ハ物品上納ナルカ故ニ公平ヲ失シ作業ノ自由全ク拘束セラレ從來男女一人ニ付各粟幾俵ト定メラレ大抵一家ヨリ少キモ五六俵多キハ二十餘俵ヲ納ムルヲ以テ一歳ノ收穫ヲ擧ケテ之ニ充ツルモ猶足ラサルトキハ馬ヲ賣リ豚ヲ鬻テ之ヲ補ヒ又上番所ヨリ麻絲ヲ納メシメ或ハ上布等ヲ織ラシメタル其ノ麻ハ那覇ノ商人ヨリ購求スルモノニシテ近來其ノ價騰貴シ爲ニ一層負擔ノ重キヲ加ヘ島民ノ困難實ニ甚シ又本島士族ノ役員トナルモノ類多ク倉元二百三十一人番所三百四十四人山方農務假筆者五十人貢賦所二十五人合計三百四十人

ニシテ此ノ他小使ノ如キモノ三百八十人ノ多ニ上レリ其ノ倉元番所等ニ毎日出勤スルハ僅ニ五分ノ一ニ過キス毎年一回納稅期ノ外別ニ事務アルコトナシ然ルニ其ノ年俸ハ倉元ノ頭ハ二百八十圓首里大屋子ハ百九十五圓大目差ハ百五十圓脇目差ハ百三十圓與人ハ百五十圓等ニシテ本島々費實ニ三萬七千餘圓ニ及ヘリ同一島民ニシテ役員トナル者ハ暖飽逸樂ヲ極ムルモ他ノ人民ハ勞苦寢食ヲ安スル能ハサルノミナラス其ノ得ル所ノモノハ悉ク之ヲ納メサルヲ得ス島民中粟ノ味ヲ知ラサル者半ニ過キ味噌有スルモノ四分ノ一ニ過キス其ノ衣服ノ如キ夏ハ粗末ナル芭蕉布一枚冬ハ破レタル袴一枚ニシテ甚キハ一家數人一枚ヲ交、服スルニ至レリ生活ノ悲慘實ニ名狀スヘカラス是全ク重稅負擔ノ致ス所ナレハ人頭稅ヲ廢シテ地租ニ改メ現品納ヲ廢シテ金納ニ改メ役員ヲ減シテ島政ヲ改革セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治二十七年五月 日

貴族院議長 侯爵 蜂須賀茂韶

内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

○伯爵清懷家敦君 此請願ハ過日曾我子爵ヨリ政府へ質問ヲ致サレマシテ昨日答辯ガゴザイマシタ通り沖繩縣士族川滿某ノ請願デゴザイマシテ、宮古島ノ人民ハ今日ニ到ルマデ矢張り人頭稅ノ如キ苛酷ナル島政ヲ執ッテ居ル、故ニ此島政ヲ改革シテ島費ヲ減ジラタイト云フ請願デゴザイマス、ドウカ願クハ御贊成アラムコトヲ希望シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本意見書案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、次ニ俵製及荷造改良ノ件請願會議ヲ開キマス、

〔左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメニ玆ニ掲載ス〕

意見書案

俵製及荷造改良ノ件

北海道函館區元町平民遠藤吉平呈出
右ノ請願ハ米穀食鹽及海產物ハ我カ國產物中ノ貴重ナルモノナルニ其ノ俵製荷造甚粗惡ニシテ運搬取扱ノ際ニ於テ漏泄スルモノ實ニ少カラス明治二十四年全國米穀ノ收穫高ハ三千八百拾二萬三千五百四拾八石統計局調査ニシテ米一俵ニ付平均三合ノ漏泄アリトスレハ貳拾八萬五千九百貳拾六石

六斗壹升ノ多キニ上リ此ノ壹石平均代價七圓トスレハ金貳百萬千四百八拾六圓貳拾七錢ヲ空シテ道途ニ委棄スルモノナリ米ノミニ於ケル損失尙此ノ如シ若大小豆麥等一切ノ穀物及食鹽海產物ヲ總計セハ決シテ三百萬圓ヲ下ラス況ヤ荷造ノ粗惡ニ依リ或ハ腐敗ヲ來シ或ハ黴濕ヲ生シ爲メニ價格ヲ落スコトアルハ衆人ノ熟知スル所ナリトテ請願人ハ夙ニ之ヲ憂ヒ深ク海外諸國ノ荷造法ヲ觀察スルニ未タ我カ國ノ如ク粗惡ナルモノヲ見ス是國家ノ經濟上ニ於テ一日モ忽諸ニ付スヘカラサルヲ以テ其ノ方法ヲ畫策議定セラレ國家ノ遺利ヲ收メラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治二十七年五月 日

貴族院議長 侯爵 蜂須賀茂韶

内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

○伯爵清棲家教君 此請願ハ北海道函館區元町平民遠藤吉平ト云フ者ヨリノ請願デゴザイマシテ、即チ俵製及荷造改良ノ方法ヲ立テラレタイト云フ建議デゴザイマス、是レハドウカ御賛成アラムコトヲ望ミマス、

○子爵林友幸君 チヨット御尋子申シタイ、俵製及荷造改良ト云フハチヨット聞取レ兼子マスガ、俵製ト云フト俵ヲ製シ變ヘルト云フノデゴザイマスカ、○伯爵清棲家教君 俵ガ餘リ粗末デアル、例ヘバ麥トカ小豆トカ云フ様ナモノ、又米ノ如キモノモ荷造等ノ粗末ナタメニ腐敗スル様ナコトガアルカラ、モット能ク俵製ヲ注意シテ貫ヒタイト云フノデアリマス、

○子爵林友幸君 分リマシタ、併シ是レハ俵ノ制ト云フモノハ是レマデ法律デ出タモノデアリマセヌ、今度更メテ法律ニナッテスルノデゴザイマスカ、是レマデハ上納モ米デアッテ米ヲ納メルカラ夫々皆其藩々デ昔ハ納メテ居ッタモノヲ金祿ニナリマシテ金納ニナリマシタ、夫レデ之ヲ拵フルノハ法律デモ別ニ出マシテ拵フルモノデゴザイマセウカ、

○伯爵清棲家教君 別段ニ法律ヲ拵ヘテ貫ヒタイノ、命令ヲ發シテ貫ヒタイノト云フコトハ請願書中ニ見エナイ、取締ヲシテ貫ヒタイト云フ丈ケノコトデゴザイマス、

○子爵林友幸君 サウスルト一統ニ人民ガ取締ナスルニ便利ガ惡ルイカラ、スルト云フノデゴザイマスカ、

○伯爵清棲家教君 サウデス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本意見書案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数ト認メマス、次ニ千島國樺提島電線架

設ノ請願會議ヲ開キマス、

〔左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ此ニ掲載ス〕

意見書案

千島國樺提島電線架設ノ件

北海道函館區富岡町平民太田代十郎外十七名呈出
右ノ請願ハ千島ハ日本トオコスコス海ノ咽喉ヲ扼シ帝國北邊ノ要害ヲ占メ其ノ地汚塞ナリト云フト雖之ヲ歐米諸國大都會ノ寒地ニ在ルモノニ比スレハ未タ必シモ其ノ下ニ出テス而シテ海產ノ饒多ナルハ宇内ニ冠タリ陸地ニ至テハ樹木鬱鬱地味膏腴耕牧ニ適スルハ從來ノ實驗ニ徴シテ明カナリ硫黃ノ如キ獸禽ノ如キ亦多シ實ニ帝國ノ寶藏タリ然ルニ永ク之ヲ寂寞荒涼ニ委スルモノ職トシテ運輸交通ノ便ナキニ由ラスンハアラス海運ノ如キハ既ニ冬期中二回ノ航海ヲ起シ稍、開進ノ運ニ向フト雖電線ヲ通架シ邊疆警備ノ實ヲ舉ケ物產出入ノ便ヲ圖ラサレハ拓殖ノ業何ニ由テカ振起セン今其ノ電線架設ノ願路ヲ考フルニ根室ノ野付岬ヨリ國後ノ泊港、アトエヤ、擇捉島ノペロタルベツ、タン子モエ、紗那、留別等ヲ過キ藥取港ニ至ル凡百三十里ノ間ニ架設セラレ以テ氣脈ヲ本土ニ通シ緩急相應スルノ途ヲ開カレタシ今其ノ費途ヲ概算スルニ貳拾貳萬圓ヲ要スヘシト雖拓殖ノ大業警備ノ急務ヨリ之ヲ觀察スレハ亦已ムヲ得サルノ必要アリトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治二十七年五月 日

貴族院議長 侯爵 蜂須賀茂韶

内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

○伯爵清棲家教君 此請願ハ北海道函館區富岡町平民太田代十郎ヨリノ請願デゴザイマス、北海道千島ハ追々海運ノ業モ進ンデ參ルコトデアルカラ故ニ電線ヲ架設シテ貫ヒタイ、然ルニ夫レハ急ナルコトデゴザイマセヌカラ、夫レ故ニ電線架設ニ取掛ラレタシトノ請願デゴザイマス、諸君御賛成アラムコトヲ望ミマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本意見書案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数ト認メマス、次ニ庄内川改修ノ請願會議ヲ開キマス

〔左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ此ニ掲載ス〕

意見書案

庄内川改修ノ件

愛知縣海東郡萬須田村平民村瀬周三郎外五千六百九十九名呈出
右ノ請願ハ庄内川ハ全國大河中ノ一ニシテ其ノ源ヲ美濃國惠那郡ノ山間ニ發シ尾張國ニ入り矢田川ニ會シ東西春日井、愛知、海東諸郡ヲ貫キ尾張内海ニ注ク所ノ一大流ニシテ年々歳々泥沙堆積シ川底ノ隆起水田ヨリ高キコト十八尺ノ上ニ出ツルモノアルニ至ル一タヒ霖潦ノ到ルヤ濁浪汎濫堤塘ヲ破壊シ橋梁ヲ漂蕩シ沿岸人民ノ禍害頻年絶ユルコトナク之カ爲ニ被ムル所ノ損失ヲ算スルニ維新以來二十五ヶ年間ニ於テ少クモ四百貳拾五萬圓餘ヲ下ラス其ノ土木費ノ巨額ナルト沿岸人民ノ疲弊セルト實ニ想像ノ外ニ出ツルモノアリ本川改修ノ必要ハ舊藩廳モ已ニ之ヲ認メ又明治五年愛知縣廳ニ於テモ其ノ測量ニ著手シ明治二十四年ハ海東郡會ヨリ客年十月ハ海東、東西春日井三郡會ヨリ縣知事ニ建議シ本川一大工事ハ急ニ屬セルヲ具シタリ要スルニ本川ノ改修ニシテ之ヲ等閑ニ付スルトキハ沿岸百二十六町村ハ流離顛沛復救フヘカラサルノ悲境ニ沈淪スヘク而シテ其ノ費用ノ如キハ到底沿岸人民ノ負擔シ得ル所ニ非サルニ依リ速ニ國庫金ヲ以テ改修工事ヲ起サレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也
明治二十七年五月 日

貴族院議長侯爵 蜂須賀茂詔

内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

○伯爵清棲家敦君 此請願ハ庄内川ハ追々河床モ高クナリ到底地方人民ノ力ヲ以テ之ヲ改修スルコトハ出來ヌニ依ッテ之ヲ國庫支辨ヲ以テ庄内川ノ改修ヲシテ貫ヒタイト云フ請願デアリマス、是レモ諸君ノ御賛成ヲ得タイト存ジマス、
○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 本意見書案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 過半数ト認メマス、次ニ信濃川流未改修ノ請願會議ヲ開キマス、

〔左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

意見書案

信濃川流未改修ノ件

新潟縣中蒲原郡龜田町々長五十嵐幸太外十八名呈出

右ノ請願ハ政府ハ曩ニ信濃川河身改修ノ舉アリ新潟縣亦本川堤塘改築ノ功ヲ起シ兩土木著々其ノ歩ヲ進メ數年ナラスシテ將ニ終リテ告ケムトスルノ今日ニ於テ反テ水害ヲ増スノ狀ヲ呈スルニ至レリ抑、請願人等地方ノ惡水ハ一ニ栗ノ木川ニ依リテ信濃川ノ流未ニ排出スルヲ以テ信濃川流勢ノ緩急ハ即チ栗ノ木川流勢ノ緩急ヲ爲セリ近來信濃川ノ流未年一年ヨリ緩ク而シテ其ノ餘水栗ノ木川口ニ向テ注入スルカ故ニ信濃川ノ出水アルヤ常ニ栗ノ木川ニ逆流シ元蒲原村外八十一箇町村ノ耕地四千四百四十町餘ヲ漂ハシ又其ノ減水スルニ及ヘハ泥沙ノ沈澱甚キニ因リ更ニ惡水排泄ノ途ヲ塞ケリ若之ヲ等閑ニ付セハ彼ノ四千四百四十町餘ノ耕地ハ變シテ池沼ト爲ルモ亦知ルヘカラス蓋是等ノ災害ハ信濃川兩土功ノ竣成ト共ニ其ノ跡ヲ收ムヘキモノナルカ如シト雖元來河身工事ハ新潟市白山浦ニ止メ其ノ以下ハ何等ノ設計ナキヲ以テ泥沙漸ク河口ヲ塞キ流勢次第ニ緩ク其ノ災害ノ及フ所前日ヨリ甚キモノアリ初メ河身工事ノ設計ヲ定メラル、ニ方リ擔當技師ハ小阿賀野川ノ水量ハ二萬立方尺ノ標準トセラレタリシニ今ヤ第三土木監督署ハ八萬立方尺ノ水量ヲ有シ尙逐年増加ノ狀アルヲ調査シ得ラレタリト聞ケリ果シテ此ノ如クナラハ請願人等地方ノ水害亦故ナキニ非サルヲ以テ特ニ小河賀野川ノ改修ト白山浦以下ノ工事ヲ起シ請願人等ノ爲ニ其ノ厄難ヲ免レシメラレンコトヲ望ミシニ其ノ後政府ノ白山浦以下ノ工事計畫略、成テ告ケラレタリト聞キ縣會ハ十九萬六千八百圓餘、市會ハ六萬三千三百圓餘ヲ負擔スルコトヲ決議セリ閣縣ノ渴望如此ナルヲ以テ速ニ此レニ著手起工セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也
明治二十七年五月 日

貴族院議長侯爵 蜂須賀茂詔

内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

意見書案

信濃川流未改修ノ件

新潟縣新潟市參事會新潟市長鈴木長藏呈出
右ノ請願ハ信濃川治水工事ハ明治十九年以來著々其ノ歩ヲ進メ沿川人民ハ數年ナラスシテ其ノ慶ニ賴ルヲ得ヘシ然ルニ新潟市白山浦ヨリ港口ニ至ルノ間ハ該工事ノ範圍外ニ屬シ河身堤防兩ツナカラ改修スル所アラサルカ故ニ上流ノ工事一步ヲ進ムレハ新潟市ノ被害亦從テ一步ヲ加フルノ狀アリ今其ノ一斑ヲ舉ケレハ左ノ如シ

一 洪水横溢ノ害

信濃川治水工事アル以來其ノ一タヒ出水アルニ當リ新潟市ニ向テ横溢シ來ル所ノ水量ハ之ヲ從前ニ比シ幾倍ノ多キヲ加ヘ去ル二十二年ノ如キハ殆全市ノ七分ヲ浸セリ爾來年々横溢ノ害ヲ被ラサルナシ是上流工事ノ竣ルニ從ヒ河水ノ他ニ漏ルモノナク皆走テ港口ニ注グニ坐スルナリ

二 水勢不定ノ害

洪水横溢ノ害已ニ其ノ慘狀ヲ極ム而シテ平時ニ於ケル水勢不定ノ害ハ更ニ焉ヨリ甚キモノアリ新潟ノ地タル概子繞ラスニ河海ヲ以テシ運輸交通常ニ舟楫ノ便ニ依レルニ白山浦以下ハ水勢ノ奔逸亂注ニ一任スルカ爲ニ流勢定ラス淺深忽チ處チ異ニシ昨ハ大船ヲ泛ヘシ今ハ小舟ヲ通セス月前ニ其ノ深サ丈餘ナルモ月後ハ沙洲ヲ現ハシ之カ爲ニ汽船定繫場其ノ用ヲ爲サス倉庫建物亦荒廢ニ歸セムトスルモ勝テ算フヘカラス

以上ノ狀況ナルヲ以テ大小ノ船舶動モスレハ其ノ出入ヲ杜絶スルモノアルニ至ル是獨リ新潟市民ノ不幸ナルノミナラス内外通商上ニ阻碍ヲ與フルヤ實ニ大ナリ故ニ上流工事ト共ニ白山浦以下ノ工事ヲ起シ治水ノ大成ヲ望ムトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治二十七年五月 日

貴族院議長 侯爵 蜂須賀茂韶

内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

○伯爵清棲家教君 此請願モ矢張り同様デゴザイマス、信濃川改修ノ請願デゴザイマシテ新潟白山浦以下ノ前八年々々其水害ヲ被ル、故ニ其水害ヲ避ケルタメニ速ニ未流ノ工事ニ著手シテ流通ノ速ナル様ニシテ貫ヒタイト云フコトノ請願デゴザイマス、是レモ御覽アッテ御採擇アラムコトヲ願ヒマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 此信濃川流末改修ノ件ト云フノハ二ツアリマス、夫レデ別ニ御異議ガ無ケレバ是レハ二ツ共一緒ニ決チ採ラウト思イマス、

〔「異議ナシ」ト呼ブ者多シ〕

意見書案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、過半数ト認メマス、次ニ復祿及復族ノ請願、會議ヲ開キマス、

〔左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ此ニ載録ス〕

意見書案

復祿及復族ノ件

- 第一號 愛知縣知多郡共和村士族竹内源之進外七百三十九名呈出
- 第二號 前同縣名古屋市樋ノ口町士族大島喜兵衛外九百九名呈出
- 第三號 前同縣丹羽郡犬山町士族前田一郎外五十三名呈出
- 第四號 石川縣金澤市横安江町士族小澤務外八百四十一名呈出
- 第五號 秋田縣雄勝郡岩崎町士族古野富治外七十八名呈出
- 第六號 三重縣一志郡川合村士族渡邊六雄外一名呈出
- 第七號 前同縣津市大字岩田出口平民森島健之助外二十六名呈出
- 第八號 前同縣一志郡久居町士族稻田利兵衛外四名呈出
- 第九號 前同縣津市大字中ノ番町士族林新藏外四十九名呈出
- 第十號 前同縣安濃郡神戶村平民大久保新左衛門外八百五十二名呈出
- 第十一號 德島縣勝浦郡勝占村平民田中龜三郎外二十四名呈出
- 第十二號 岐阜縣惠那郡苗木士族土岐正雄外二百三十名呈出
- 第十三號 香川縣高松市大字天神前士族堀織衛外十六名呈出
- 第十四號 滋賀縣滋賀郡膳所村士族三上綱次郎外四百三十名呈出
- 右ノ請願ハ陳述スル所各、疎密ノ異アリト雖要スルニ其ノ第一號第二號第三號第四號第五號ハ何レモ世襲ノ卒族ニシテ之ヲ他例ニ照スニ永世祿ヲ給與セラルヘキ資格アル者ナルニ或ハ三箇年ノ家祿ヲ一時ニ賜ハリ或ハ終身祿ヲ給付セラレタル爲メニ他ノ同資格者ニ比シ給與額其ノ半ハヲ出テス故ニ永世祿ニ相當スル金祿公債證書ノ下付ヲ請願スト云フニ在リ其ノ第六號第七號第八號第九號第十號ハ世襲ニ非サレハ元拔群有功隊又ハ有功隊ト稱スル兵士ニシテ當時其ノ筋ノ指令ニ依ルモ永世祿ヲ賜ハルヘキモノナルニ廢藩後故ナクシテ族祿ヲ并セ失ヒ今ニ至ルマテ族ヲモ復セラレサル者アリ故ニ資格ニ相當スル金祿公債證書ヲ下付セラレ其ノ族ナキ者ハ復族セラレムコトヲ請願スト云フニ在リ其ノ第十一號ハ數代其ノ藩ニ奉仕シ即チ世襲ノ者ナルニ廢藩後多少ノ正米ヲ給セラレ族祿共ニ沒收セラレタリ然ルニ其ノ後同資格者ニシテ復族給祿セラレタル者アルニ依リ同一様ノ恩ニ浴スルコトヲ請願スト云フニ在リ其ノ第十二號ハ世襲ノ士及卒族ニシテ藩ノ有司ヨリ常職ナクシテ常祿ヲ食ムヘカラストノ説諭ヲ受ケ若干ノ耕地ト資金トヲ給スヘキノ約ヲ以テ還祿セシニ續テ廢藩ノ舉アリ前約ハ泡沫ニ屬セルヲ以テ資格ニ相當スル金祿公債證書ノ下付ヲ請願スト云フニ在リ其ノ第十三號ハ國事犯ニ依リ明治四年庶人ニ下サレタルニ其ノ後大赦ニ遇ヒ復族セラレタルヲ以テ資格ニ相當スルノ金祿公債證書ノ下付ヲ請願スト云フニ在リ其ノ第十四號ハ初メ藩知事ハ朝裁ヲ經テ藩士祿高ノ多少ニ拘ラス士族ニ米三十俵卒二十五俵ヲ與ヘ明治三年歸田法施行ノ際世襲祿ヲ廢シテ慰勞扶持ト改稱シ同五年歸田法ヲ廢シ復籍セラレタルニ滋賀縣令ハ慰勞扶持ノ時

ナ以テ家祿廢止ノ年ト做シ士族ニ米十二俵卒ニ六俵ヲ渡サレタルハ苛酷ノ處分ナルヲ以テ相當ノ金祿公債證書下付ヲ請願スト云フニ在リ
右ノ旨趣ナルニ依リ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊十四通及送付候也

明治二十七年 月 日

貴族院議長侯爵 蜂須賀茂韶

内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

○伯爵清棲家教君 此復祿及復族ノ請願ハ文書表ノ第九號、同十號、十七號、二十二號、二十五號、十二號、十三號、十四號、十五號、三十五號、十九號、二十一號、二十四號、二十六號、是レハ皆同ジコトヲゴザイマシテ聊ヅ、ノ相違ハアリマスケレドモ、何レモ其世襲ノ卒族デアリマシテ、之ヲ他ニ照シマスニモ永世祿ヲ賜ハルベキ資格アル者デアル、然ルニ或ハソノ三箇年ノ家祿ヲ一時ニ賜ハッテ其後賜ハラヌトカ、或ハ半ヲ賜ハッテ其半ヲ賜ハラヌト云フコトノミデゴザイマシテ、聊ノ違ヒシカゴザイマセヌ、夫レ故一ツニ致シテゴザイマスルノデス、是レモ夫レ尤ナル次第ト委員會デハ議決致シマシテゴザイマスルガ、ドウカ諸君ノ御賛成ヲ得マシテ決議アラムコトヲ望ミマス、

○林宗右衛門君 唯今委員長ヨリ御報告ニナリマシタ文書表ノ第十二號等ノ復祿及復族ノ請願書デアリマス、是レハ此案ハ請願者ノ陳述ニ依リ起草シタモノデ、願書ノ寫ハ既ニ御覽ニナッタコトト存ジマスガ、本員ナドモ紹介致シテ居リマスガ、何レモ是レハ尤ナル次第ト本員ナドモ見受ケテ居リマスル、尙ホ速ニ通過アラムコトヲ希望致シマスル、序ナガラ議長ヘ請求ヲ致シテ置キタイノハ先刻酒井子爵ヨリノ發言モアリマシタガ此中ニハ年々出マスル請願モアリマス、又政府ニ於テ之ヲ實施セラレマセヌト毎會此請願ハ目的ヲ達スルマデハ出マセウカト本員等ハ信ジテ疑ハヌノデアリマス、幸ニシテ通過致シマシタラバ一日モ早ク夫レ實施アラムコトヲ尙ホ議長ヨリ請願ヲ送付シタ時分ニ政府ヘ此事ヲ宜シク御陳述アラムコトヲ併セテ希望致シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 決ヲ採リマス、意見書案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数ト認メマス、先刻本席ヘ御依託ニナリマシタルニツノ特別委員ヲ選定ニ及ビマシタニ依ッテ報告致シマス、書記官長ヲシテ朗讀致サセマス、

〔中根書記官長朗讀〕

外國ニ輸出スル物品ニ關スル海關稅免除法律案特別委員

子爵 谷 干 城 君 子爵 曾 我 祐 準 君

子爵 由 利 公 正 君 子爵 尾 崎 三 良 君

男爵 千 家 尊 福 君 男爵 前 田 正 名 君

男爵 藤 村 紫 朗 君 男爵 清 浦 奎 吾 君

男爵 若 尾 逸 平 君 男爵 渡 邊 清 君

府制法案特別委員

公爵 近 衛 篤 磨 君 男爵 西 村 亮 吉 君

公爵 安 場 保 和 君 男爵 小 原 重 哉 君

公爵 村 田 保 君 男爵 藤 村 紫 朗 君

公爵 富 田 鐵 之 助 君 男爵 小 原 重 哉 君

公爵 平 田 東 助 君 男爵 藤 村 紫 朗 君

○西村亮吉君 府制法案ノ委員ハ先刻モ申シマシタ通り是レハ兩三日デ迎モ調査ガ出來ヤウトハ存ジマセヌカラ議院法ノ二十五條ニ依リマシテ委員ノ審查ヲ繼續スルコトニ……

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 夫レハ先刻モ申シマシタル通り既ニ特別委員ヲ置カレマシタル以上ハ特別委員ニ於テ成ルベク至急ニ御取掛リニナッテ御調査ニナッテ夫レデモ出來ヌト云フ時デ宜シカラウト思ヒマス、明日ハ日曜

日デゴザイマスケレドモ最早會期モ餘日ガナイコトニナッテ居リマスカラ或ハ明日ハ會議ヲ致スコトガアルカト存ジマス、併ナガラ何分唯今議事日程ヲ定メ兼子マスカラ今夕マデニ議スルコトガアリマシタラバ議事日程ヲ後トヨリ御報告致シマス、今日ハ散會、

午後三時三十分散會

〔明治二十七年六月二日帝國憲法第四十四條第二項ニ依リ停會ヲ命ゼラル〕